茶家[illegible]

名物錦繡圖説
并價附目利弁
和草之圖説
唐草之圖説
印籠工名譜
并名物印籠畧
根附工名譜
并根附之畧
緒ト玉品考
古筆切短冊價録
茶人花押續
時代蒔繪韓
并棗之畧

四

浪花春翁稲垣輯

茶家醉古襍

第四輯

華頂新之院
中尾新文会堂梓

茶家醉古四襍

錦繍總論

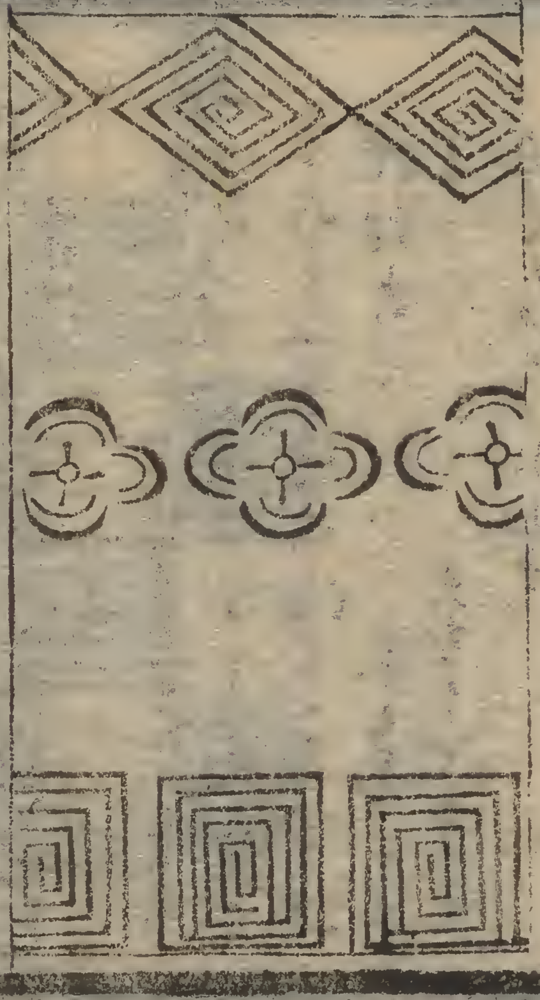
劉熙釋名曰錦ハ金なり是を作すに功なるを用ゆる其價を重する事金の如し故に字を制するに帛と金とにや

又藤貞幹の説に金襴ハ織なり金段ハ紋を絹にて地を金にて織る紋を金にて織る地ハ段子なり蜀江綿ハ綿に金を交て織るものといへり世説近く蹇驢嘶餘に出されしも今世を引く称する人なし又古音祝綿呉錦

至錦等の名あり秘錦ハ地色
なく一面に紋を織出す倭錦ハ倭地
なりと皆書に出たり東京錦ハ
を求むれども體定かならざりしを
今ハなべて人に知れり又ハ按に延喜式
に唐綾錦あり東京を書ハ假
名なるべし東京錦にコヽニヱキの
訓ありてその義詳ならず薔薇錦
霞錦のるいハ今存するもの稀也
よつて又三國の時蜀の国にて
専ら錦を作りて鄴中記にも
錦の品数を出せしもあれども只その
名目ありて彼土にも稀なるべし
丙午春

名物錦繍圖說補遺

○金襴



大和錦　前に次の地又ハ色へちがふ花も
おり神具にもつかふと云
なやうハ花はなに赤なとの錦織くし
なハすぐれたるものなれども日本
せうのおりおなしとて住吉な
か大社の御室の飾にこれを
つかへ御代よりありしと云つたへ
日本織ものゝ初めとす

嵯峨切金襴　お集て出さしの八
ゝ之のゝ名に再ひあつめいづれのと
名は地りやう名その糸紅又ハ茶に
ありと地紋あり組角菱なり
とらふ錦繍ハ皆今ハ売らる
物につつくいつまでも常にあるや
用法さまざまのことれあるべし



雞頭金襴

地ハすゝうそめ　けてしめゑとあり
とやう紫雞頭ハ俑ならび一寸程
枇杷大程の花から紋集ある
ミゝろとおりしゝ実なるをそりて
ふくらひきかふ出す



大燈金襴

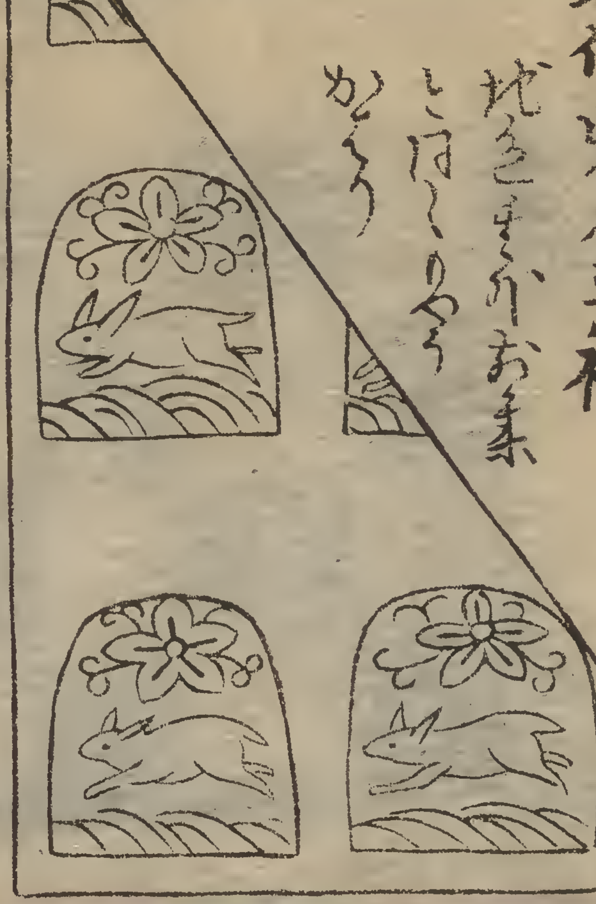
すゝうきな地ハ
こゝやうゝむら枝梨
ふとゝ下つめあり　五の目ふするる
大燈地　大燈国師袈裟の
列帥なり　紋集とすまし呉
呉なり



釣石疊金襴

もえぎさや地
とやうゝゑぶてく
かげのかうしとも宝尽し一ツづつ
ならべ地ゝくしき紋す地模様いるる



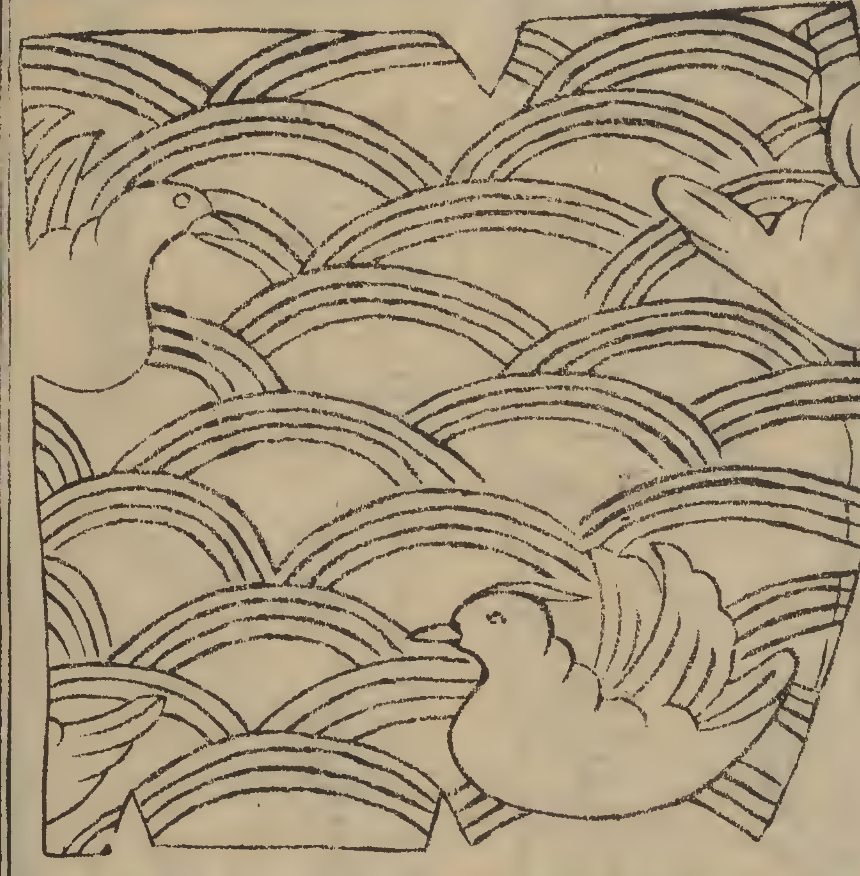


花兎金襴

地色もへぎお茶 と同じうなり かるゝ

鴛鴦金襴

紺地なり おしどりの大さ巾一寸 ほどなり 仰さ五の目にいれ紋 の外あまり きのみ紺地なり 洛陽本圀寺日蓮上人曼荼 羅の表具裂なりと見ゆる



浄智金襴

白地なり 花兎 の作しなれども あさくするゝ地組 渾地のごとく そゑ不麦てゝ助あり 信長 時代にわたる

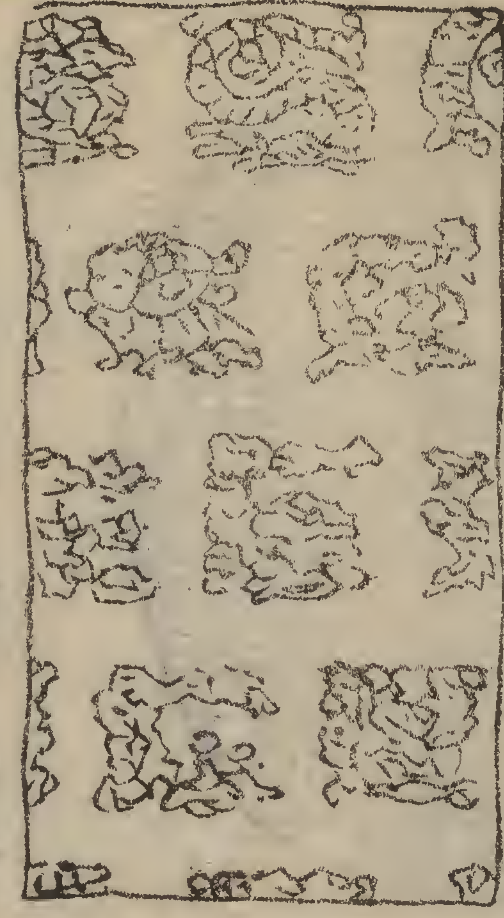
同上



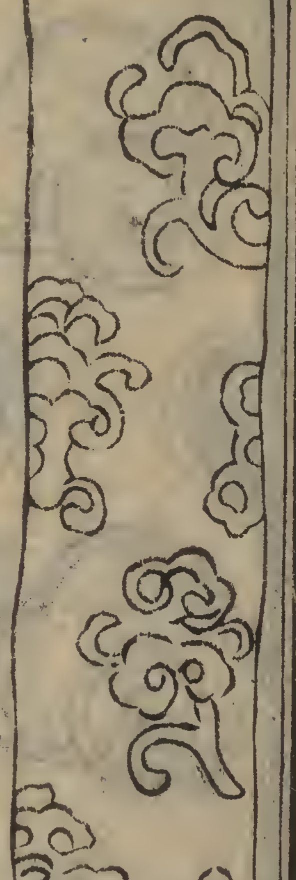


纐大鞁金襴　紺地のやうに太鼓輪らんろ
紋光あり緞地なり

角龍切金襴　地色紫あり りやう面と花
その形を作る又ある押織も
あり緞地に赤糸紋あり 家
おゝくある其の角龍は白地也



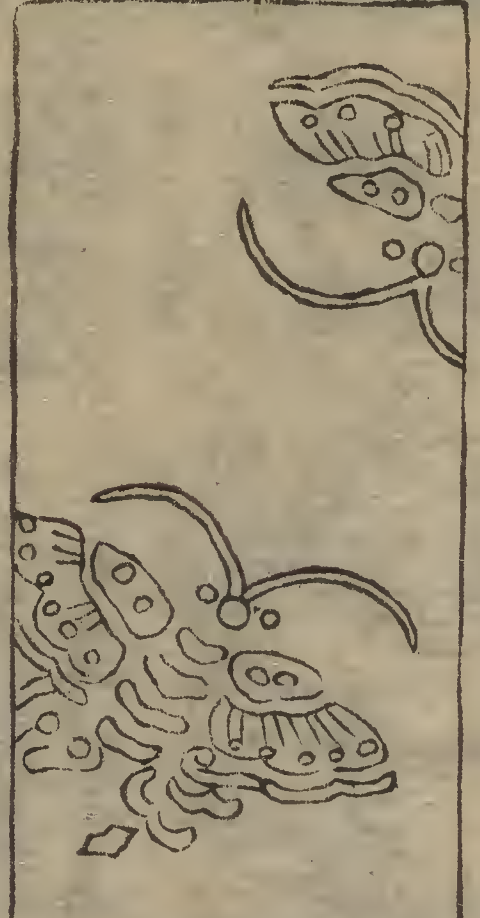
和久田　柿白地 地合厚し
紋黒雲純子の織留の
ごとくて白ふ糸の
ものもあり



金春切　ちゞみ金紋 紅段合
剣切より厚し



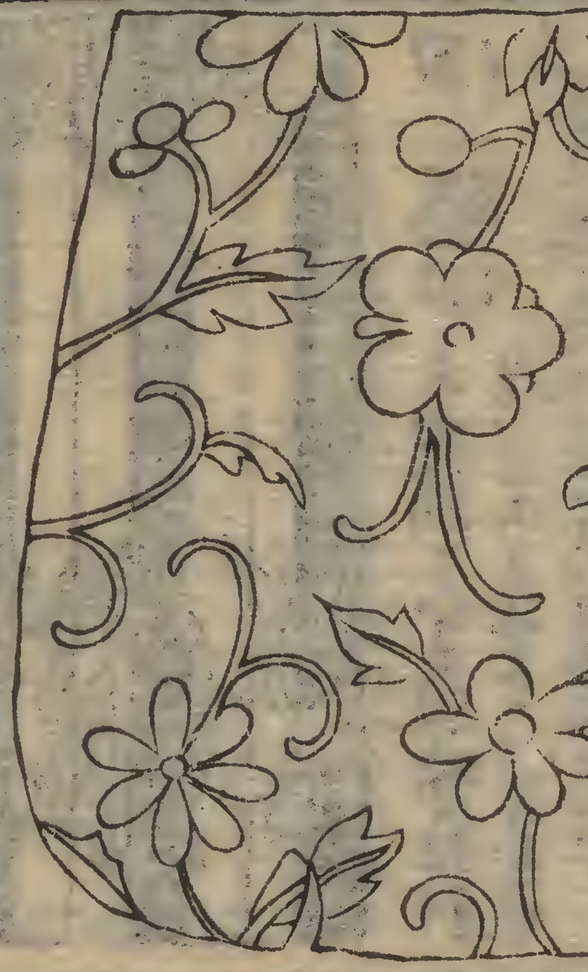
伊藤切　萌黄紅と合紋珠花形
紫もぢ大小あり又金玉を
あく縞とあるところのもあり



富田金襴　此説とも前集に委
さるところ地色茶ある大
内の後、陣の下山殿小の系代富田
ころ続まうといふ時代の詳ありき
おかずとぞいふ

○純子

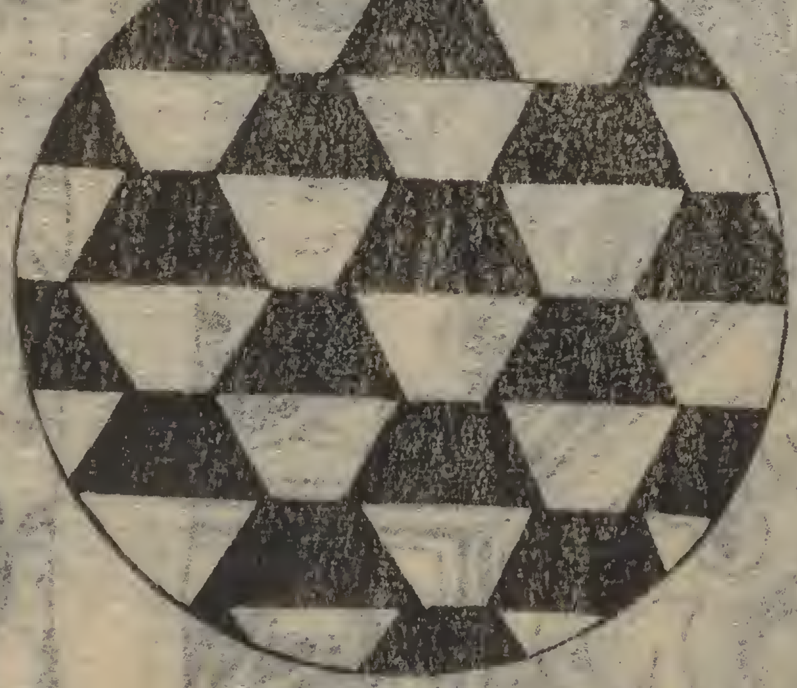
珠光純子 花色地なりやうちん唐草又ハ地色ハ茶色のぬくもりやう絵つやちろうとも紋多起松屋源三郎より其の所持茶入の袋に用ひて名高し珠光時代本よりきとふおもふ



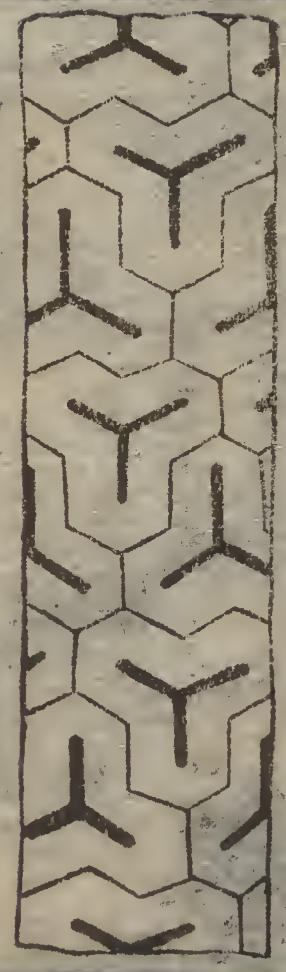
渦純子（ウズ） むらさき紅地なりやう書枝まつぎの浮紋なり



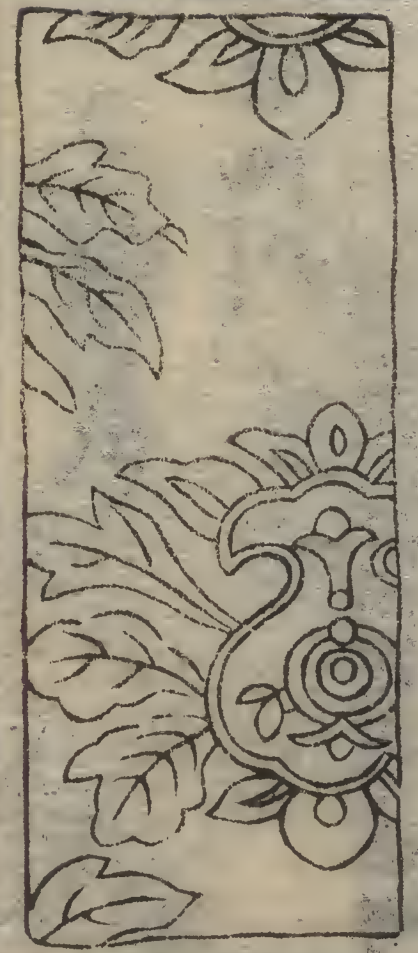
衿腰純子 かゞく茶地なりやう緒のとうこ五の目おほあり組し紋うすりえぎ



鉄先純子 むらさき地茶色のとうりやう三方より叙うそ路合せ紋の色茶かうるき



織田純子



○雜裁

有栖川



蜀紅



羅地印金



テンス印金



ウンケン



○錦繡價録

茶入袋ニ用ル寸法大サ四寸五分四方の切二ツ底の切二寸四方の切一ツ その寸法ニて金百両より六三十五両迄 ゟ下まて大体位付

○金襴

金廿枚位 鶏頭金襴
金三百貫、 長楽寺〃
金三百貫〃 鈒先〃
金三百貫、 花兎〃
金十枚、 富田〃
金十枚、 槁屋切
金百貫、 木下〃
金三両、 大徳寺〃
金三百貫、 鴛鴦〃
金二枚、 ちや浅切

金三百貫位 大燈金襴
金三百貫、 逢坂〃
金三百貫〃 嵯峨切
金三百貫、 花麒麟
金十枚、 住蔵切
金百貫、 銀閣寺
金十枚、 ふしさ
金十枚、 釣石畳
金百貫、 針屋切
金三枚、 大友菱

金十両 大内桐
金二枚 高臺寺切
金百貫 鈒太鼓
金三枚 建仁寺切
金二両 義隆切
金五両ヨリ三両 安楽菴
金五両 糸屋切

金百貫 大内菱
金十両 芥川
金百貫 角龍
金一枚 浄智
金十両 雲鶴
金三両 荒礒大純
金二両ヨリ一両 古金襴

○銀襴

金十枚 與福寺銀襴
金一枚 藤種
金三両 いちご

金一両 大純
金百貫 なごしま
金二枚 金剛切

○鈍子

金十枚 本能寺
金十枚 白極

金十枚 下妻
金十枚 宗句

金十枚 劔光
金十枚 正法寺
金二枚 笹蔓
金二枚 京極
金三両 七羊
金三両 紹鴎
金三両 そろぐ
金一枚 遠州雲獅子
金三両 御朱印
金十枚 珠光
金一枚 袴腰
金二両 藤本藤音
宗薫切 位上

金百貫 有楽
金十枚 藤谷
金二枚 うず
金一枚 鎌倉
金五両 道玄
金二枚 遠州
金五両 清水
金百貫 符場切
金二両 立田羽
金一枚 任吉
金三両 三雲屋
常真切 位上

○漢渡
金十枚 鎌倉
金五十両 望月
金百貫 中尾
金三枚 あつき
金三両 船越
金二枚 ふちい
金二枚 小松
金十両 日野
有楽 位中

金十枚 弥左衛門
金百貫 青木
金三枚 吉野
金百両 姫路
金二枚 伊藤
金二枚 紹鴎
金一両 ところ
朝倉 位上

印金
此色のやうなるものを金襴のやうなり牡丹から艸作土高しき地銀の如くにして金筋浪泥ところどころあやうなかに金をうちつけ押分あり袋のもしつつくまかひなる故花なり

紋紗印金 純子地印金

さや地印金　綾子印金
木綿地印金　紗や印金
高麗印金
日本印金　京の良印金ハあや
地そのうへ金なり
京市金○糸色も同じ金ハいろいろ
牡丹唐草○一本金ちも地いろ
安穏地ともよてよす
金紗　地色いろいろあり
横ハ白金を地に縫なり
又このかへちことにあるそわらう
地とにふ縫紗あまし　織紗ハ
金の糸とかふ織らいるとも下より
織部紗　こん地うつら小唐草
京ホ地色いろいろも
ありあり古田織部のこのみて
京竹屋町にて織そめしと白ら
まこと切あふのをいふ也おほきをもり
こまち銭屋町にて仕立
銭屋切紗　織部紗に似たる縞
唐織うし島え織ふ
つるすき切なり
京雁金屋切紗　京織なり

焼切紗　唐の紗を年中に縫なり
広金を縫てつかひて縫横
銀紗　上代ハ銀をいひ黒くあり
海黄　地色のつぎに花色いろいろにて
紫にあり黄色もあり　京
丸とよくあかまかるとし　紋ハ
色ハ紋も色をてるみ牡丹から
くさ○上代海黄ハ豆糸むらさき
ありてさうもなもさうおあり
○まとみりいらさ上代よりおほし
わるうとるなるき
○金襴之分やう
金紗　織紗よりも一段金と縫
持とることのあり
紗金　織紗よりも一段金を織
つけたるもの
銀紗　金紗の金とけかやうて
銀の事を用ひたるもの
印金　金をらうて置きりておし
金地　紋をそろへて地を金糸
おりたるものなり
寄金　金をよせて織もの
路次金襴　京すじちうりさらうり
ものなり

高麗錦（コマ） 銀縫なり

錦みしき 高麗にてうつし縫出したるなり

金莫臥爾（モウル） モウルといふ国の名紋を浮織にしたるものなり
銀モウルもおなじ○莫臥爾織といふハモウルにちりさきを織にしたるものなり此外ハルシヤモウル紗モウル杯の名あり

廣東島（カンタウ） うへに糸にて廣東織の廣東島とちく（ママ）き者

こて織のことのかなり

襴結 かなきのうき紋ありまたは別糸にて郡結といふありあり

島羽結（テウロ） 木綿のはやあり莫糸のあり紋

たびぅ 地あさきやうにて紋あり

段金 純子に金入なるなり

唐織 うき織のことなり

緋紆津（フウ） 地紋うきたるものなり

紡綶（ホウラフ） すじ毛糸の中など仲のやう紋あり

𢅻 地のうくる物にて厚く紋とらず

魯 紋綶に似て柔かなるものなり

紋魯 すじの地紋あり

屋形北絹 北絹のやうなる紋又綾北結の糸地なり

カビタン 金入のもの也

権舟段子 唐さや大紋のもの也

海黄 地ざんぐりとして厚し

時代錦 綴縷錦（ツヅレ）

繻錦 綸金 蛮南 未継紗

錦織 七糸 紬地金綶

繻子地金綶 チヤンパ島

絨（ビラウ） 聖多鳴（サントメ） 東雲など有

錦繡之部終

○革究圖説

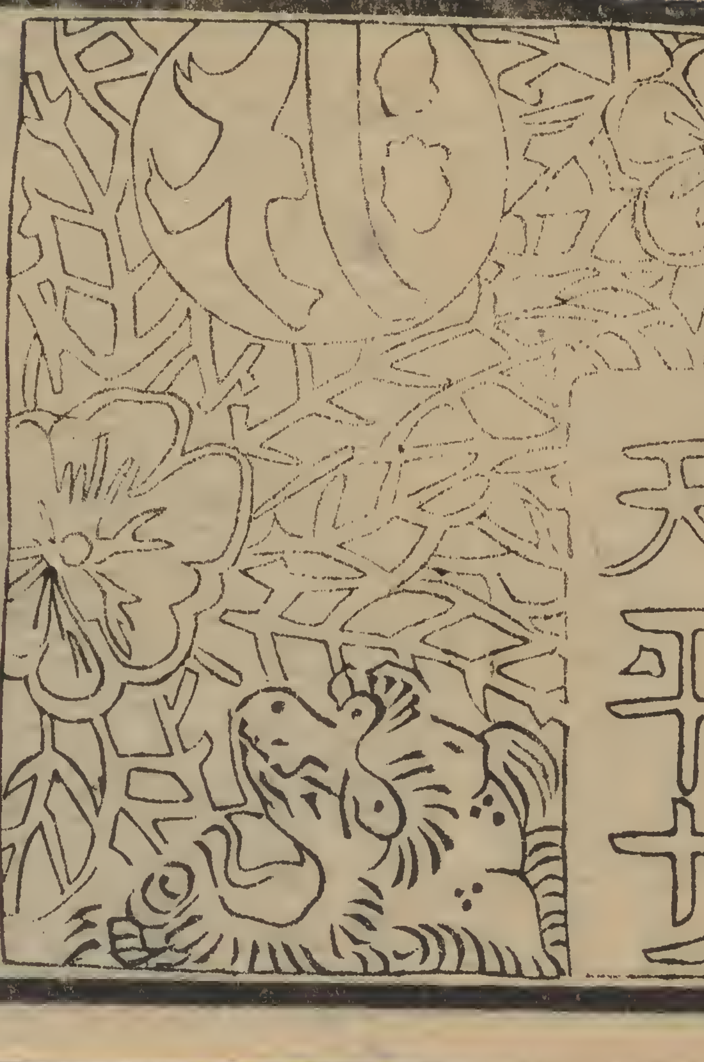
周禮の天官に掌皮ハ掌秋斂皮冬斂革春献之注に有毛為皮去毛為革とあり説文に加波とハ甲の音の転じたるものなり三革ハ甲冑の鎧也とあるハ挊なとにもあらん革究圖考に曰く倭名類聚抄に革ハ獣の皮にて毛をさりたるを云和名都久利加波といふとある諸の獣の皮をとりて皆を去りて堅からしむる物をば理皮といふものなり今俗に仮皮といへる物これなり皮を倭名に加波といへ

凡生あるものの膚をば被といへばなり然る故に皮ハ被といふ意なりはし又獣の皮を剥て理したる革ハ更にいふなり皮と革と韋とおのおの称ありて毛ある皮ハ皮の字を用ひ加波といひ毛をさりて理したるを都久利加波といひて革の字を用ひ皆熟して柔かなるを毛なし加波といひて韋の字を用ゆ此三つの名を総て加波と称すといへり日本革究の流は審に彼云ふ其ハ事実甚だ結ぶ皆織のころまで出す

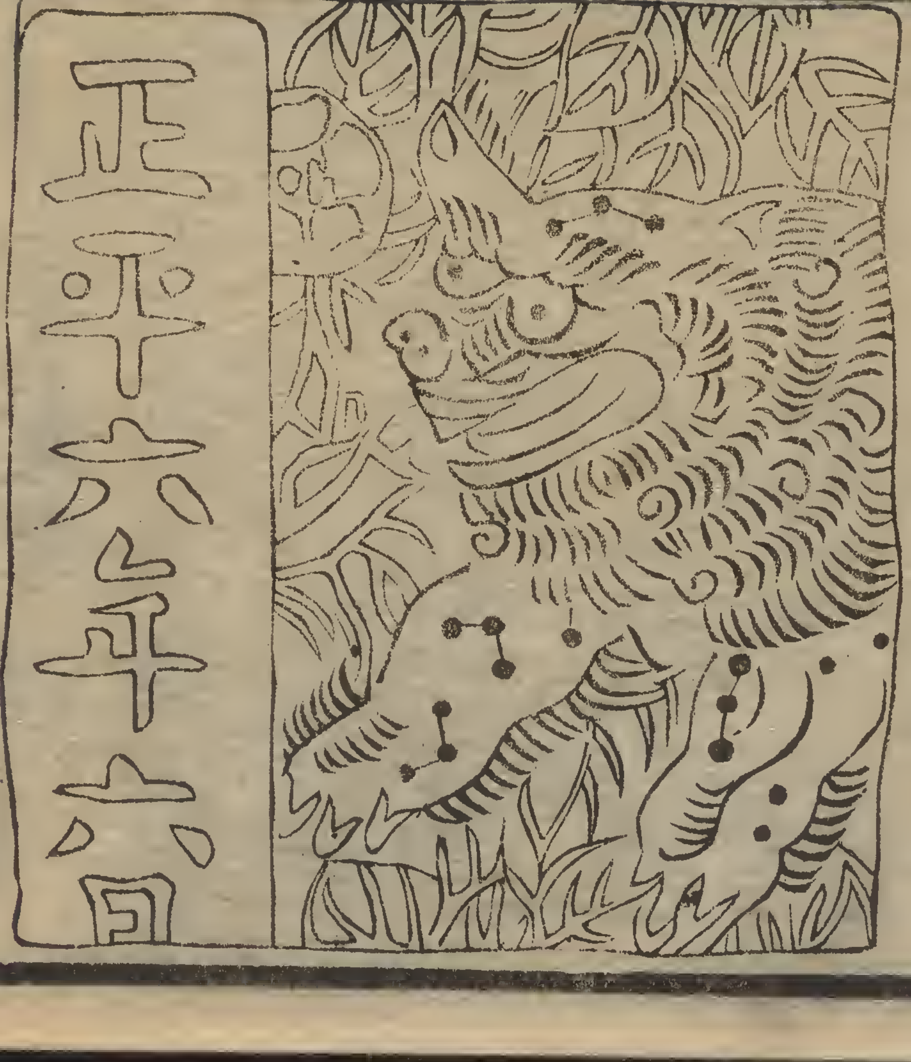
天平章　正平章

筥池佐々伝紀附録に曰天平
五年の板肥後国八代古閑橋の
ほとりより土人の得たる天平章十八
中に天平十二年八月とありて不動
の像および八幡の二字并梵字等
あり神仏の像ありけるよし古實
とりて見るものなり征西将軍懐
良親王八代高田にましましける
時にて南朝の正平年中に別
板をかりしもふまふことよりて御許
とぞうらて正平御免章と
称す此板は正平六年十一月
朔日とあり法名正平像の権
興なりし安部先生軍器考の
説ぞ正平御免章は今の
正平章なりとれ御免章
といふ地あり赤黒なるに白く
文をあらはせる深章なり紫さ
白文あるは絹章とて室町
将軍の御物に用ひし由其出
人のもちゐることを禁ぜる赤
黒のは白文あるは御免にて
誰も用ゐるなりそれに紫なれ
ともいへども正しき絹章にあら
ざるなり御免なりとかきたり

梵字入獅子文章　天平十三年八月



獅子唐花文章　正平六年六月一日



八幡文字入文章

天平十二年八月



獅子牡丹文章

圖考云高綴草子志左艸子か
どふ獅子ふやうんの鎧楯とえ
えしいこの章なるべし今ても古き
鎧の中ふ存ずるところふこの
章を用ひしもの多しきも色の
絹なると柄糸なると文の大さ
あうとあしさなると王さき古の
製とことふ多さこて寡さくい
すべてさにあらず

義經弦走（ツルバシリ）



獅子丸文章

昌考云布衣記ニ力革獅子丸をつむといふ高忠聞書ニ鞭の執柄獅子の丸革あるまじきなりといへ按ずるに先南都春日社ニ納むる證この章を見ひさき



獅子面章

愚考云布衣記ニ切付ハ狗の皮上浦同し皮なるハ獅子の面章とあれ面とハ獅子の面ニてその形をとらずんバなるまし掛矢ハ法紀ニ絲韋とハ紋と称て其がうちく深くぞるをらふ商せられとおもてかへとの



獅子丸甚文章

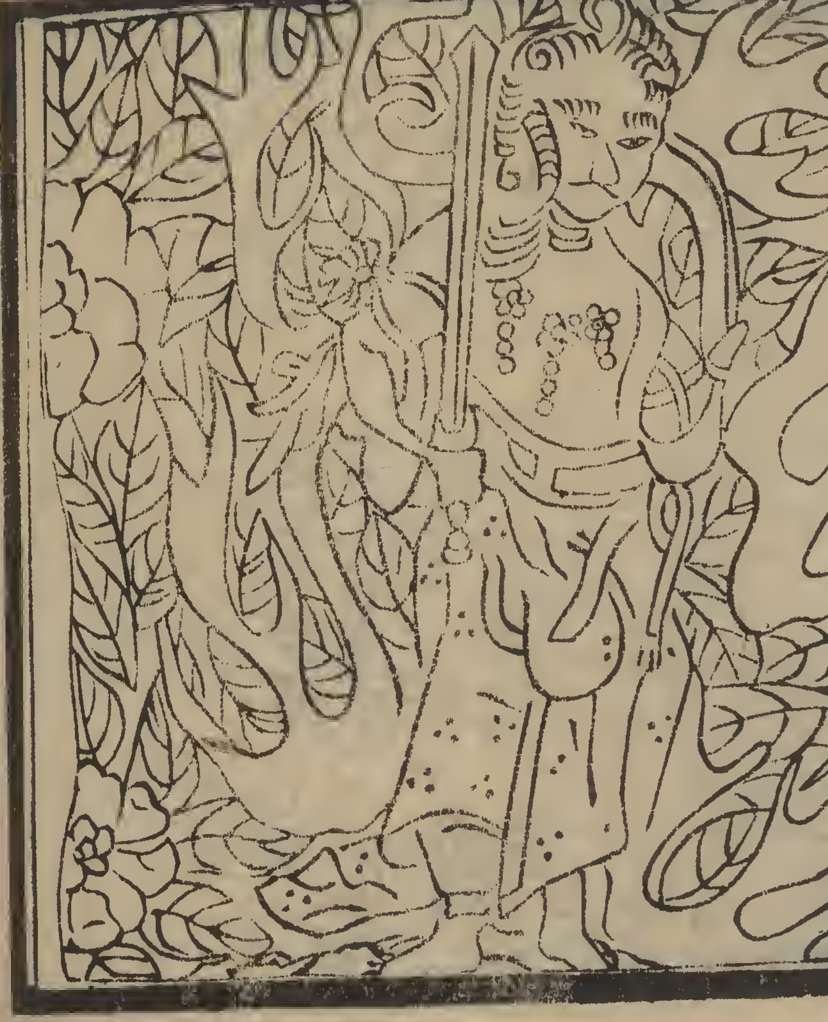
重盛公甲冑



不動尊像文章

昔者ニ義家の社の秘義
源義家公の御着長とつたわの
つるえうの其きこれをたり附在へ名づく
義家に入てそれを[illegible]杉葉を
の[illegible]細[illegible]しや此章を記[illegible]
[illegible]像出[illegible]よって天平十三年八月と
ありし章の獅子[illegible]の二字章と
[illegible]の二字[illegible]像出[illegible]
此章を天平章と称するなり不
動尊二童子の像を[illegible]の文をもし
[illegible]平[illegible]
[illegible]此章[illegible]の
[illegible]や

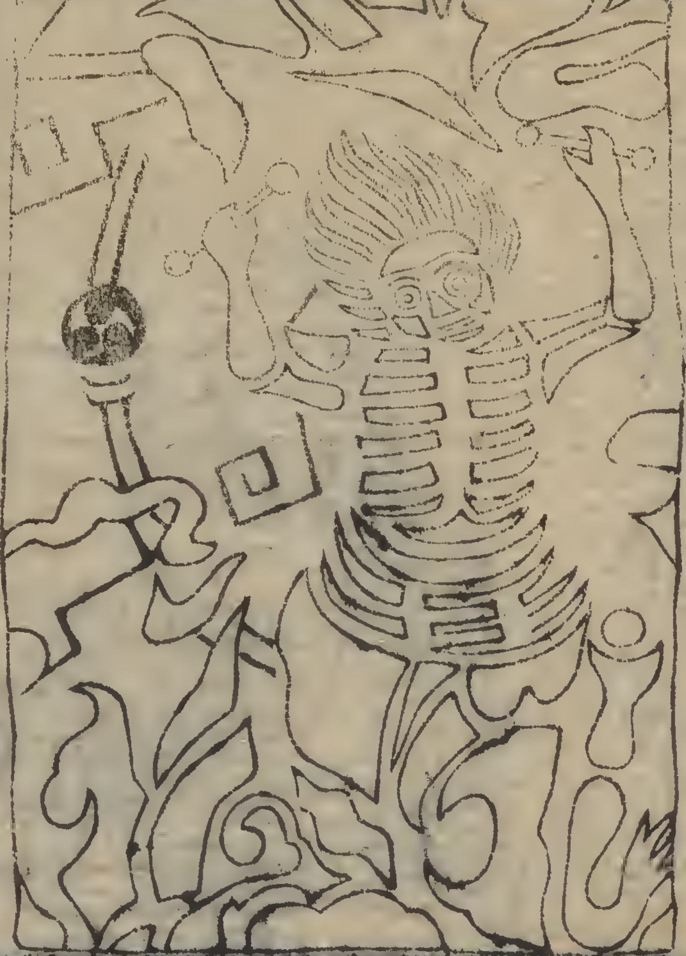
義家朝臣曽吹返之章

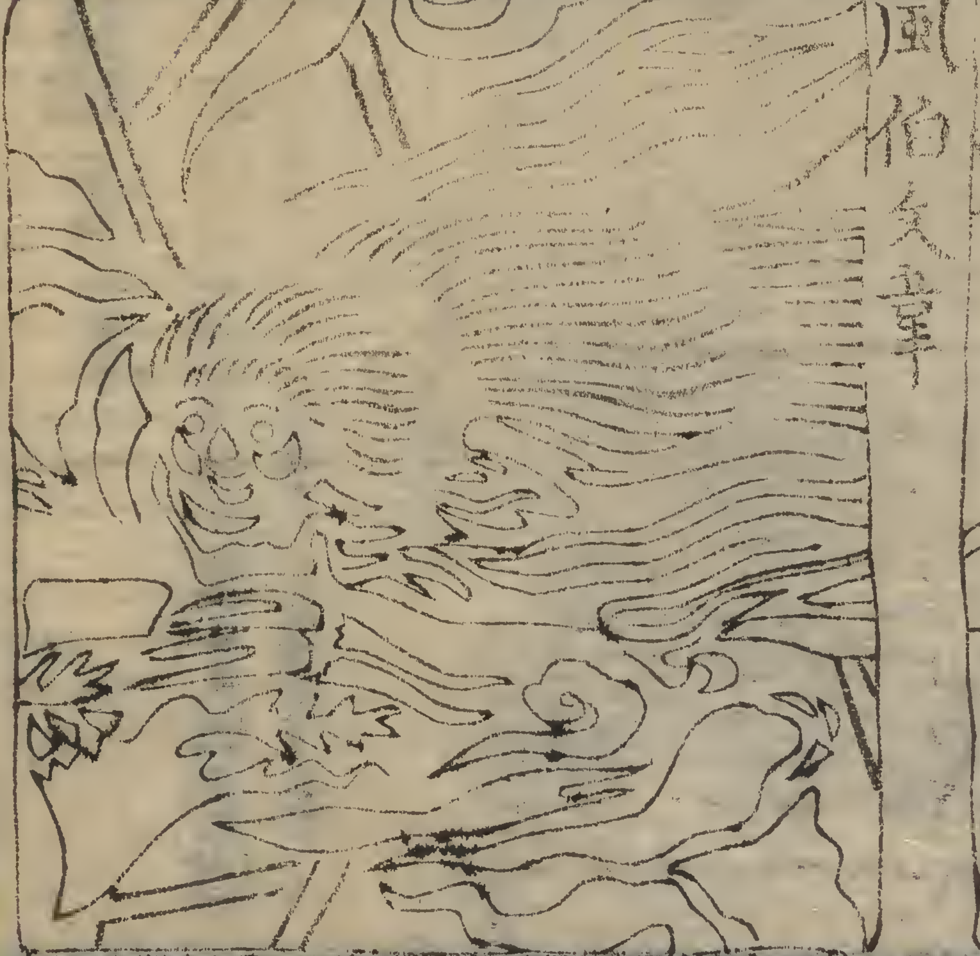


雷公文章

[illegible]日[illegible]日神社[illegible]
[illegible]大[illegible]の網[illegible]曽の吹
[illegible]の此章[illegible]
[illegible]ず

頼朝卿の甲曽

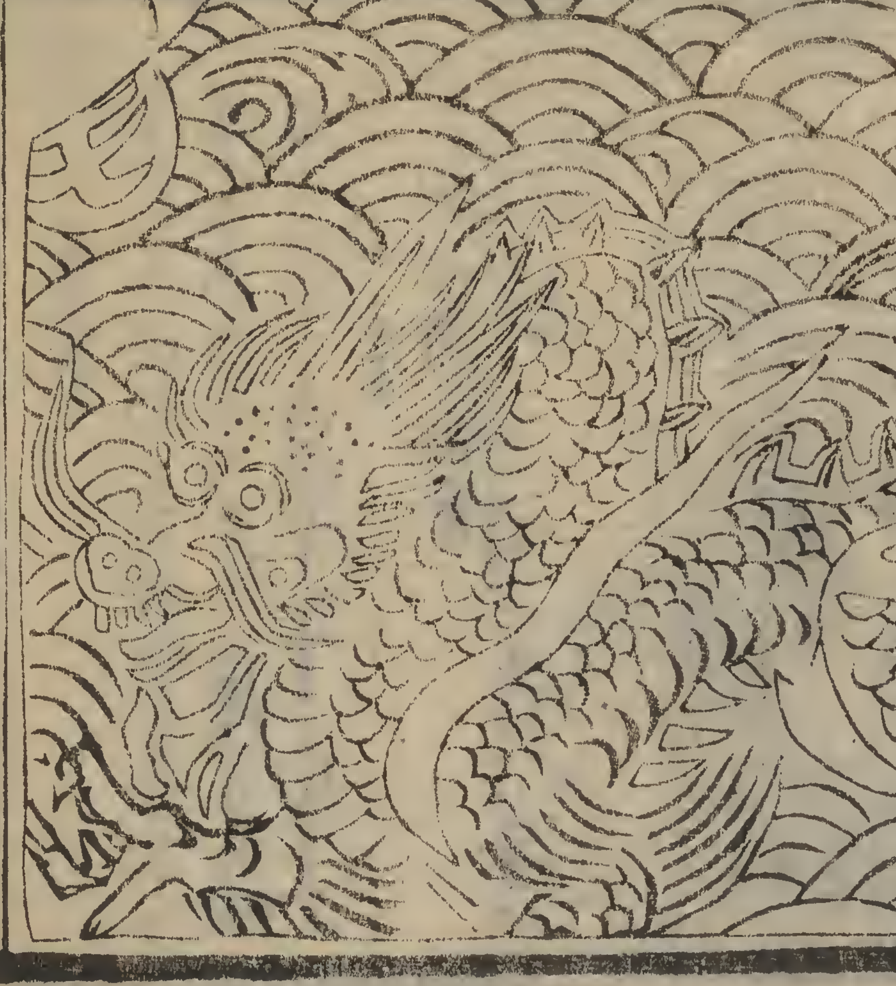




龍文韋

愚考ニ云厳島社ニ蔵る大内義隆の
甲冑ニ有し此韋之書由社ニ蔵る
縫方もあるよし

大内義隆の甲冑



錦韋

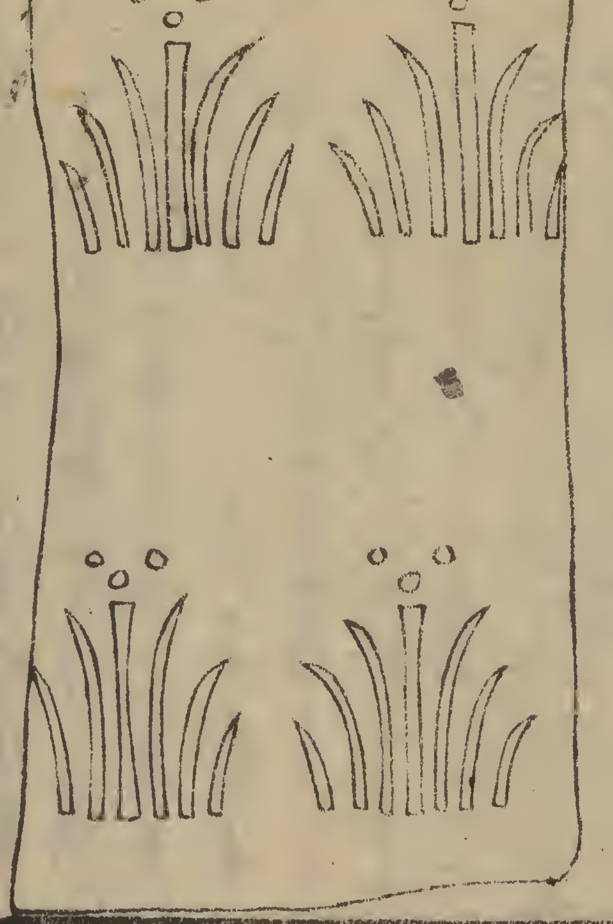
愚考云錦称ハ紙以這ノ錦韋
といふハ貞徳御聞記ニ錦韋の襪と
云ハ弓法秘書ニ錦韋といふハ面韋の
概なのなきといふも知るところハ装束
...



御免錦韋



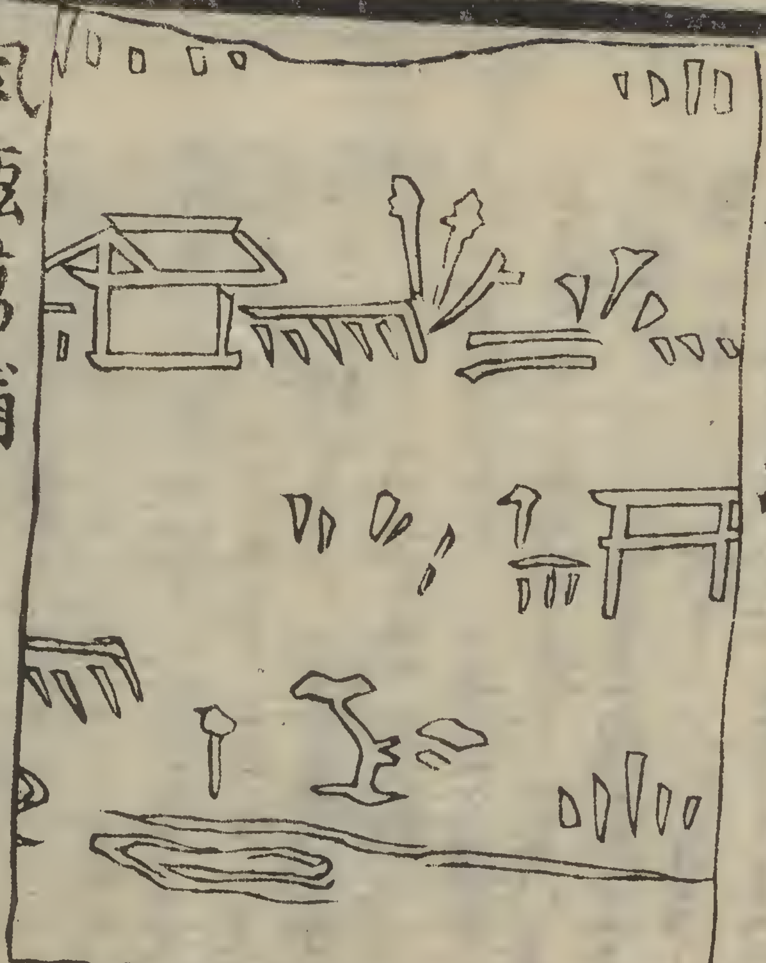
菖蒲華　城南八幡山の林下大谷
にて作りたる神功皇后
三韓を征し給ひし時凱陣の威を準く
て菖華をとりて作らしむを高麗勝
武と名付けたり後源義家卿も目
本征のとき岩清水に詣て高麗勝
武を大谷より奉らる又豊太閤朝
鮮征伐のときも岩清水へ詣て戦利
を祈らる高麗勝武を献ずとかや
又菖蒲といふは仲夏の節にあつけ
用ふ菖蒲とも勝武を通ずるなり
とりて勝利を祝ふめでたきなり
又古方の菖蒲つくりといへる古き
もののうちの中にもあつらはれたる
五草華の本を見たらく華競図
巻にもあり細見を欲せんものは其の
書をみるべし　菖蒲華の図を数ふ
出さるなり



野馬形菖蒲



家形菖蒲



楓鹿菖蒲



○唐華

應帝亜(インデヤ) 南天竺国の名なりと云 一に印度とも書すなり

すべて華の名ハ其あぢはひを以てよぶならひその産する所の国名を冠らしむるもの多し 但し此後和蘭人の説にいふ 船来のもの此を名づくる例 今の應帝亜ハ後に称するもの也 聞ほして應帝亜といふのハ本名なれ共是を以て價高し 亜媽港と称するものを最上とす 全皮なるハ三尺五二尺余もあり 接するにインデの属数多ありといへとも唐華の流行人の好みに叶ふ 此書ハ流行の情を専ら記載の便利に述るものなれバ大略を誌すのみ 委しくハ別書にしるし其品を弁ずることあらんと欲す 人々各其専らにする所あるべし 其所によりて其大体を知るべし 是を考へてもっぱら此書を補益し繁雑を省きて是を備ふのみ

亜媽港(アマカハ) ルイス 長臂(テナガ)

鼠(ネズミ) 野牛(ヤギウ) 紋野牛

七宝(シッポウ) 小印度(コインデ) 交趾(カウチ)

莫臥爾(モウル) 小莫臥尓 呂宋(ルスン)

水牛 黒水牛 小華水牛

銀水牛 ウスコウベヤ 小豆華(アヅキ)

青皮 臭青皮 聖多黙(サントメ)

大紋聖多黙 小紋聖多黙

黄い 白い 真黒(マクロ)い

湯入い 紋い 百爾齊亜(ハルシヤ)

白百爾齊亜 小華

紅華 榜葛刺華(ベンガラ)

遜華(スカシ) 印花華(サラサ)

象皮 白滑 白滑樟皮(コビト)

山馬 暹羅(シヤム) 鵜華(ウヅラ)

梨地金華 金帛 虎皮

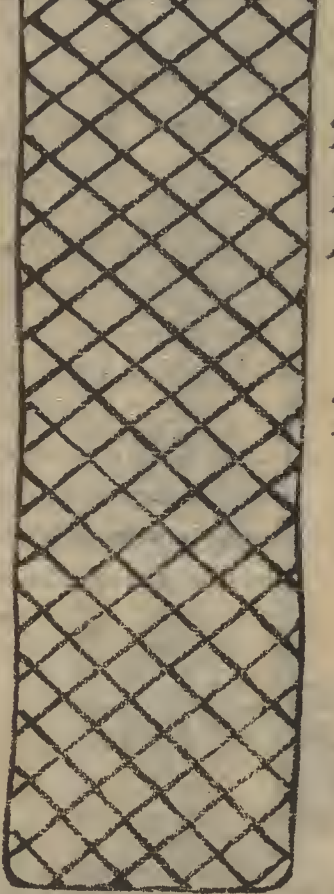
紋印度亜（モンインデヤ） 紋様一ゟあしぶりやう古来の舶と異ぞ紋
ゟらてず出しうことのとうんとう
本邦にて偽造けれどもあまで紋は
ひとく地よろし偽造は紋つるく
地甲しなるもの紋は價えぶまろし



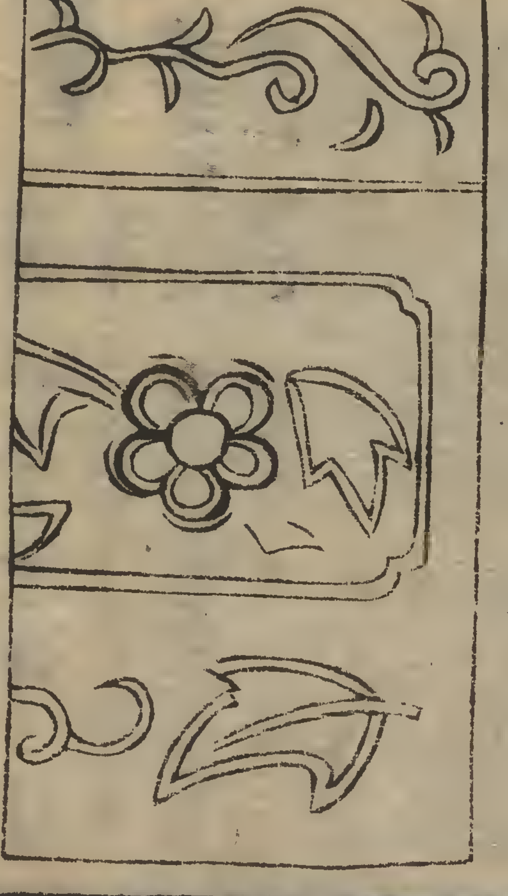
刺紋印度亜（ヌヒ） 獣毛を縫まより
てみるに深きれを
もて蔓草の形を繍ろことのなう
多彼ぶるあそて價まろし



師斗目水牛（スイナワメ） 是をやく鮮とあろて
角を附ろうとめとし
ろくさうおさんより若唐のやう
なり俗に扁通（アブドーシ）といふ師のごとく
あうとりつくすあ家にふとを附
折華較て古渡のもの沫（フス）茶
渦ろこなりてさいの大なすこれぐ
三四五年すぐり組のあきなゐとの
は和製まて劣まう



紋小豆革 小紋（モニ）は本邦の製にして
この田ぶもと所の作ぞ
あるれよれど春るびろうものなう
紋の本ろ深く紋記（キ）地ぶつこて
そとしと経てなまうさい紋市
彦く結をかすし紋様の和さ愛
おろと辨ぶて目利すべし





円裏



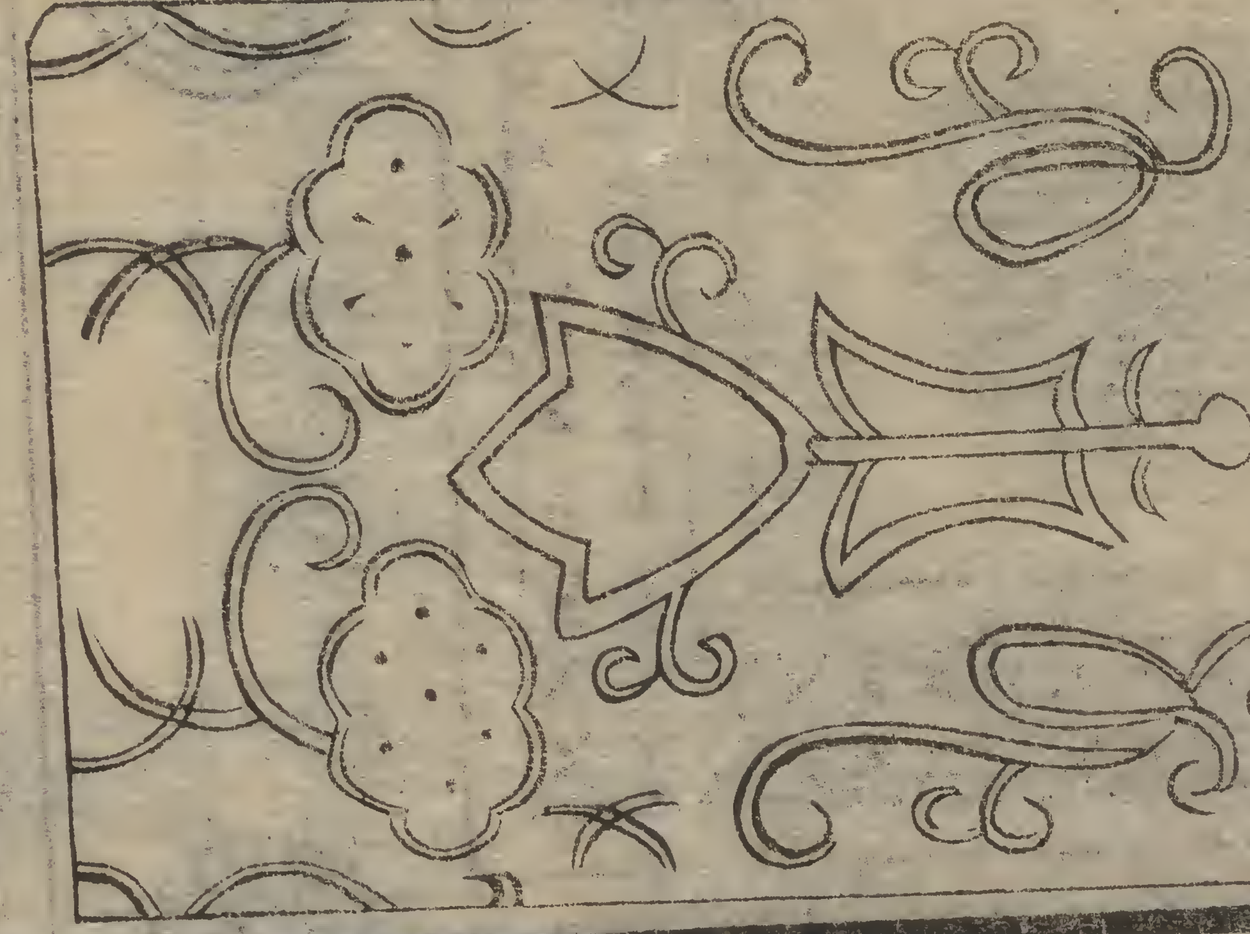
表

苔華（コケ）

蛮人の製にして纎（シ）を絃
華また紗華又ハ很華
伊勢カインデーともいへり甚（セイ）縸（シ）にて畫
の紋を縫（ヌイ）出しこのものそて裏衣の
うらうちのそてしかときもうちてこゝ云ふ
一ちくちて翟斑（ヒツジ）出しそのまゝ全体の
大さしかも手いかなる獣にや未詳也
の卿かくことしるそてありへし



紋百兩齊亜（モンハルニヤ）和製なれども舶貢のものに擬へしもやうを出したる綾多く地厚し



南京繪華（ナンキンヱ）此品の製なれどもいろいろのもや様やう紋をそめ出しゑかきたるやうなる華撒嗹羅緯皮の類と同じものにしてうすし

蛇手（ヘビデ）

りやう嵜のごとく地ハ黒浅黄
銀鑞箔を加へ染めたるもの
出来ありくさらさにけうか保ち
りやう八あまたをそなへ数寄の華
つらく書の世のさまとりどりの
一種花牛と黒ろの蛇のけるつく
りやう手の形ハ渋帛にてもらひ手
数色しくもそのすそ唐人の数
なり一色絵華の形をうし一見
け数を染めそなへて今唐華
と称す一所金銀を今華会
唐一種の二ツ種の出合かをを附
多く渋布のいかにしも面ある書き
なるべし



人形手

是のごとく人形あるを以て此
名と称す。其数品ある四
品あり地色濃き紅その品の赤種
種本手あり其大さ種人形小種大
其の数品につい種人形
亜なる文様を染めきでそ地色濃
氣のごとくいかなる銀なる品あり
数色下のやうにて銀ちかどちらく
滑縞のごとく大き種人形は種大
其の上の華あるしてよれども
此なり大きまで地色ありくらま
あるて本代のおなまり形の染
さうしてりやうの形縞櫚太き
二又五手の種人形華数うかなり
そのて地とそうとも一面ある色
うして大きおのごとく数うかなり
各ん面に黒き石のれ今華
のみる合をくまあらず渋ちく
うちとつけらるとのそれりやう
出ぐく渋布なるうし今華
此華あり多く少あるも葉にて
今華の十ひ六枚つきて織
今色くさとのなるとえてくる
まて入まうい種人形であるを
十枚織写ふるなり

淀屋革

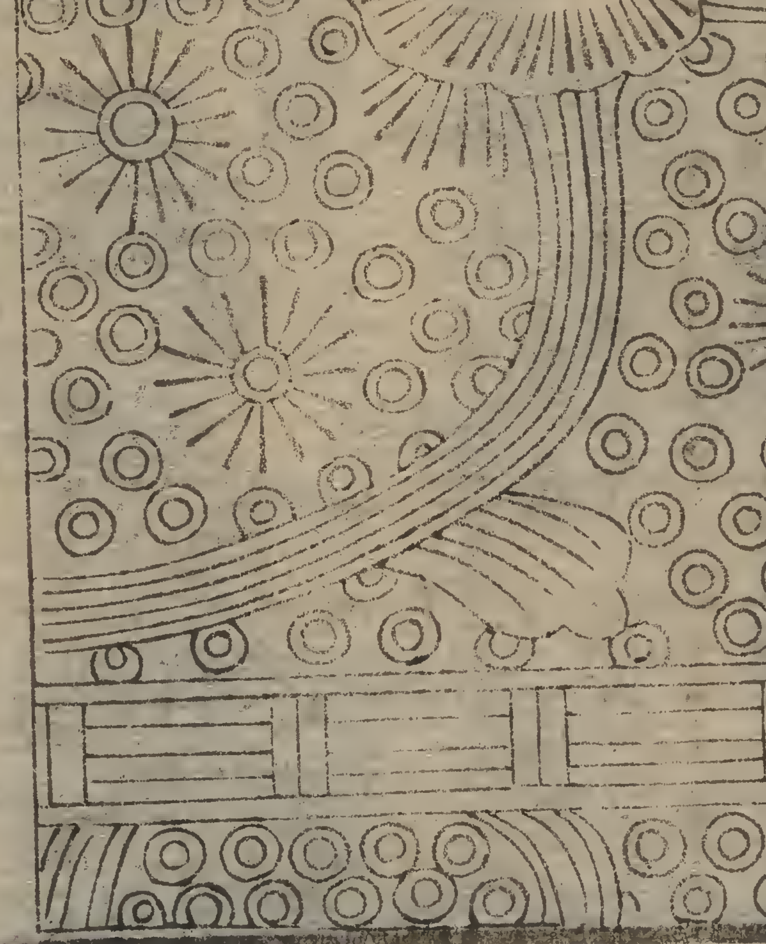
革の性ハ古革にけず
極印もそ少出し黒染
とりつく図のごとくたるまるもあるく
船来のあつそふる古し汁革大
坂よ淀屋なる替ならはしく人の孫
為なるをりつくれくなるくえて
ず便をくし



極印手

あふりつるやくなる革ハ根
唐を製しうくゆあ仏ど
汁革のて章人をの里をも紛のてく
一せんよ気をみそ泥のてそきりそう
と淀屋革のごとく黒染よくらう
記しさるとめく





羅紗手

又火口手とも地ハ白磁なり鉄
砂のごとく出たるやうの瑕多く紗
のごとく合羊絨とかの羅紗
のことごとのたり藤木色ハ紺
青あるハ黄なるもあり一
なしずありさくの白さの文
あるもありけし緑あるものある
あり赤き紺天鵞手と奈良
手まきてうつしたるもあり
あり惟ハハルレヤなり

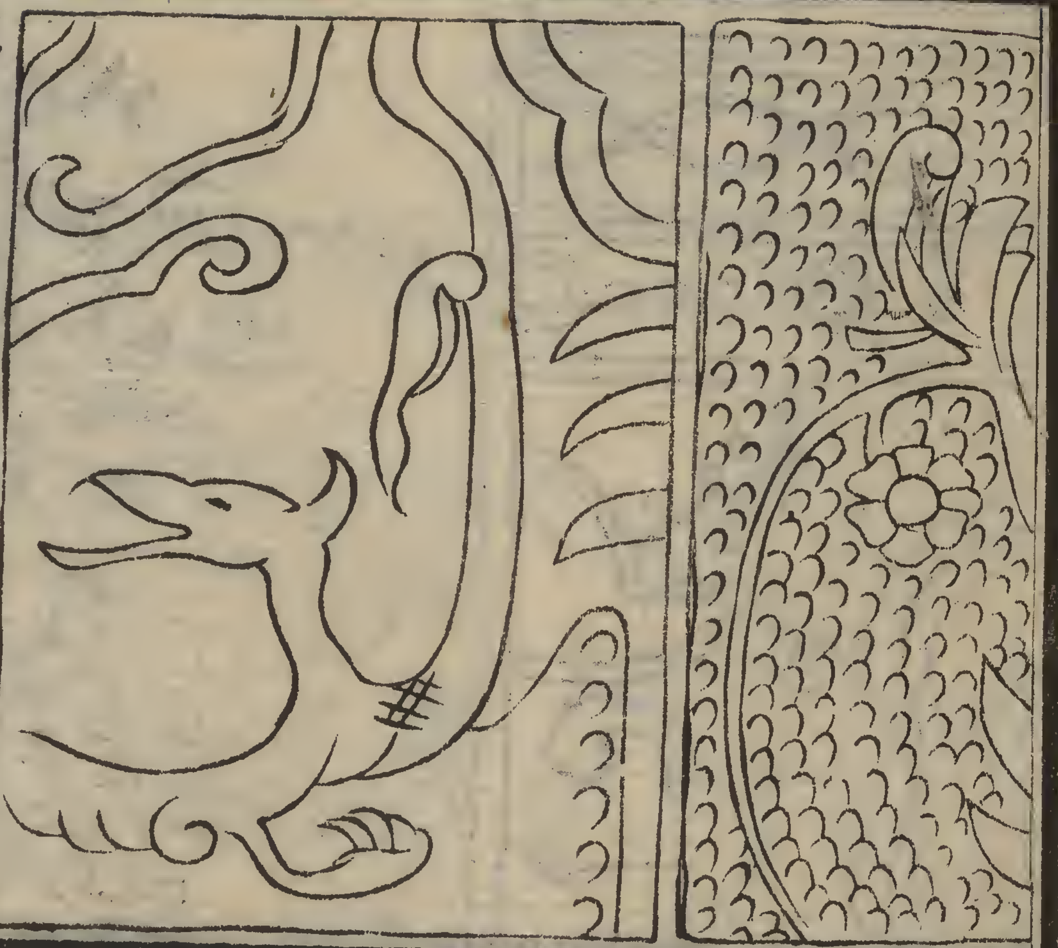


鏡の畫

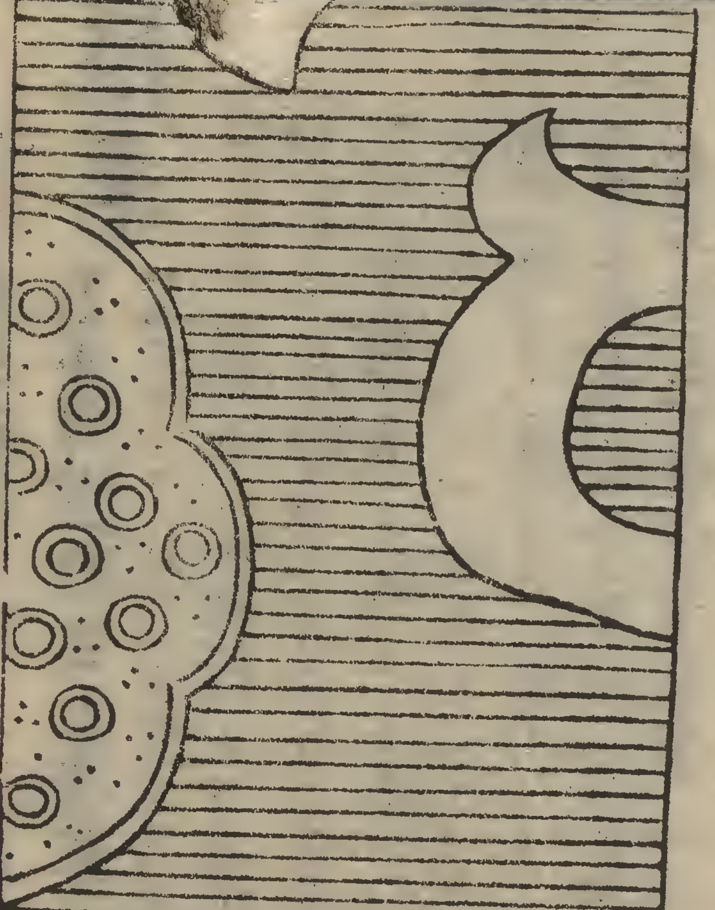
紅毛人鏡畫と書す月日影
山水ありりやう釣るあり○花の
やさしの藤しきけして葉ハ緑
なるもさらにありき年中まで
絵にのとのなり○りやうもづく
紅あらさぎさくしも地ハ濃緑紺
のうちにきがめいろく紫紅
なり○地很りて七宝のごとき赤
地しあるハ紅よりさらに朱も
○地色一なりし朱漆黄漆濃
漆あまりハ茶褐色らうの漆
やうまハ黄白漆なるもありける

ハ石鉢（ビドンダ）にハ華ハバルシヤと義するなき
ろれところて應し大サ一尺五寸四分よ中六
すなるハ大の分なり小ハ一尺二寸中四寸七分
但掛退の巴ハ僅く此ありを盂過の扇（トビラ）て
用ゆる革啄大さ一尺二寸と中一尺あり
扉（トビラ）の各程しりあふるれを傳月ひろう





花瓶手（クワヒン）
今度の写（マシナカ）て大分ある
花瓶ある花を挿る器
あるを以て名とするをいふなりと営
せるも華軟ぞ京の物にあらず



銀華

または吾華の一名を銀華と
いふことは別にありやうその
ごとしそ三ゑあり一面銀のうす
やうに而て穂もなく花も出しける
その花をしらるゝことしもまはる
名などとも云つて種を剥く
栽縫ひしめぐそ花すべく
まで見する人の名のあさ二尺
二寸二尺なすびなり



百合手

地色銀のよしを擽はのやく
すゝめて黒のどきりやうを
記しらく名の黄石合花のごとく
なるをみてけるある華に硬し



琉球文華

ちんと糸をそめう
ことととけ白きく
ウルミをなるくことゝうけて山の
根の出ところの人ゆかなどとくは深
濃と云ふ深りて重しそのさく
うちにしろねこゝあくずを皮
硬かは色ふとろあやさなどよければ
お月の為より葉の色こそある
なり文なそのあさをりて
つまとれうるなり



柘榴手（サノロ）

新渡今手華の中にては華とそのめとすはつるよう三系渡まうといふ牡丹由といふを性ハルヒヤうそ大さ二寸八分手二又のうのなり



青地

地萌緑（モエギ）のチヤに華をかくるうそもやう器のごとく藍赤のそ彩色しるを大さ新渡らき華のごとく性よろし



大模様金華

りやう呂のやく金花おくめづ彩色ありてをはく華性こともし



小模様金華

又櫻手ともいふ呂のてきし花の数を京ところのむらなりしかして浴まるの花のごときふとく画き華軟く肚かくよし後のものめいは花のごとき細く華性硬く彩色なくしてすぐくわかまるき又は彩色ことに此かの松梅のま花大模様なるやうこの呂京八宗厂　年中の舩来なり

淀縫

其の金は大あつかいしけんトメハルシヤ　紅華　金華又は白のハルシヤなどの裁なりしと来めく巾着紙入の料となるわざわざ色を取て花のかたを縫ひ捕ひろさのたゝり山端淀屑まで数多なさしてたゞ色かす仙のやきとも若きすまつく淀縫ともいふ



唐華終

○佩垂(サゲモノ)

帯に着かるゝものゝ燧袋(ヒウチブクロ)の遺風なり
火打袋ハ古事紀および日本武尊東
征のとき相模国においての難にあひ
給ふ時其火打袋にて向火をつけて焼給ふ所
其姨倭比売命より給りたる嚢に叢
火打ありしが其火を以てやき退けたまひしと
世に火打袋と云ことは此よりはじまる
太平記にも火燧袋のようなるもの
ありし事の始なるべし印籠ハ是中古
判物を入るゝ是を入と云たるなりを
薬籠(ヤロウ)と云ならはしたることを申すぞ薬籠
合せ用ひ来ることを行はれ来薬籠
蓋(フタ)をふうしは薬籠より起りたる薬籠(ヤロウ)箱
の名ありて印籠薬籠なれども佩垂の
墜(ツイ)に用ゐるを根付と云るとつけし緒を付
合するわけ用ゐると緒をとうし又紐緒肩華
数のもと出す緒で根付 根付 緒卜木
と呼し佩垂の事を云なり

○印籠工名譜

凡印籠師名有テ氏ヲ記レズ氏ノミ称シテ名ノ聞ユザル等スベテ名姓字号ニカヽハラズ云ナルニ任セテコレヲ集ム只恐ラクハ其差謬アランコトヲ 識者正焉

堀川 久次郎ト称ス 梶川彦兵衛ノ弟子 江戸ノ人 古今ノ名人コノ作重ノ裡ニ刑部梨子地又平目梨地トモ云アリ

古満休伯(コマキウハク) 御印籠蒔絵師 江戸住 二代目久蔵安巨

観子破笠(クワンシハリツ) 江戸ノ人コノ作ニ必楽焼ヲアシラヒ仕立ルナリ 又ハ堆朱ニタハ漆付ナド

近直 姓氏居住未詳

春政 京ノ人塩見小兵衛父ナリ

塩見小兵衛政誠 京ノ人磨出ニ妙 重ノモノ多シ

加兵衛 京ノ人加田ニ加兵衛 子リト称ス

山田常加 御印籠師 江戸ノ人

法橋光琳　緒方氏名ハ方祝通祢ハ金屋藤十郎又三勝
六ト祢ス青々堂ト号ス京ノ人茶道
ヲ光悦ニ学ブ故ニ印篭ハ光悦
好ノモノ多シ蒔絵ハコノ人一流ノ
繪ナリ銘ハ蓋ウラニ記ス江戸ニ在
スト云享保元年ニ没ス舎弟乾山
ハ陶器ノ作ニ名アリ

田付孝則［極］　江戸ノ人カ

同せら女［印］　孝則ノ親族カ

桃葉齋　源六ト祢ス江戸ニ住ス

野村九圭　阿波御抱
次郎又ト祢ス
江戸ニ住ス

同櫻平　次郎兵衛ト祢ス九圭ノ
弟子江戸ニ住ス

圓阿弥丹後　江戸ニ住ス三キエ
至テ見事ナリ

幸阿弥因幡　同上コノ作丹後ニ
等シ

奈良八左衛門　江戸　望月重蔵　同上

狩野十旭　名ハ建元木村氏文次
郎ト祢ス江戸ニ住ス

巣野不幽　名ハ重春木村氏甚右
衛門ト祢ス江戸ノ住

温故長寛　覚々斎ト号ス
江戸ノ人

土田半六　江戸　刑部太郎　同上

奥村罸兵衛　同上　安川　大坂ニ住ス
姓名未詳

鈴木正義［印］　京師ノ人

友忠　根付師ノ條ニ出ス蒔絵印
篭ヲ製スルニモ又象牙ニ
テ彫成シ因テ七賢人又ハ竹ニ虎
ナド巧ニ彫製ス

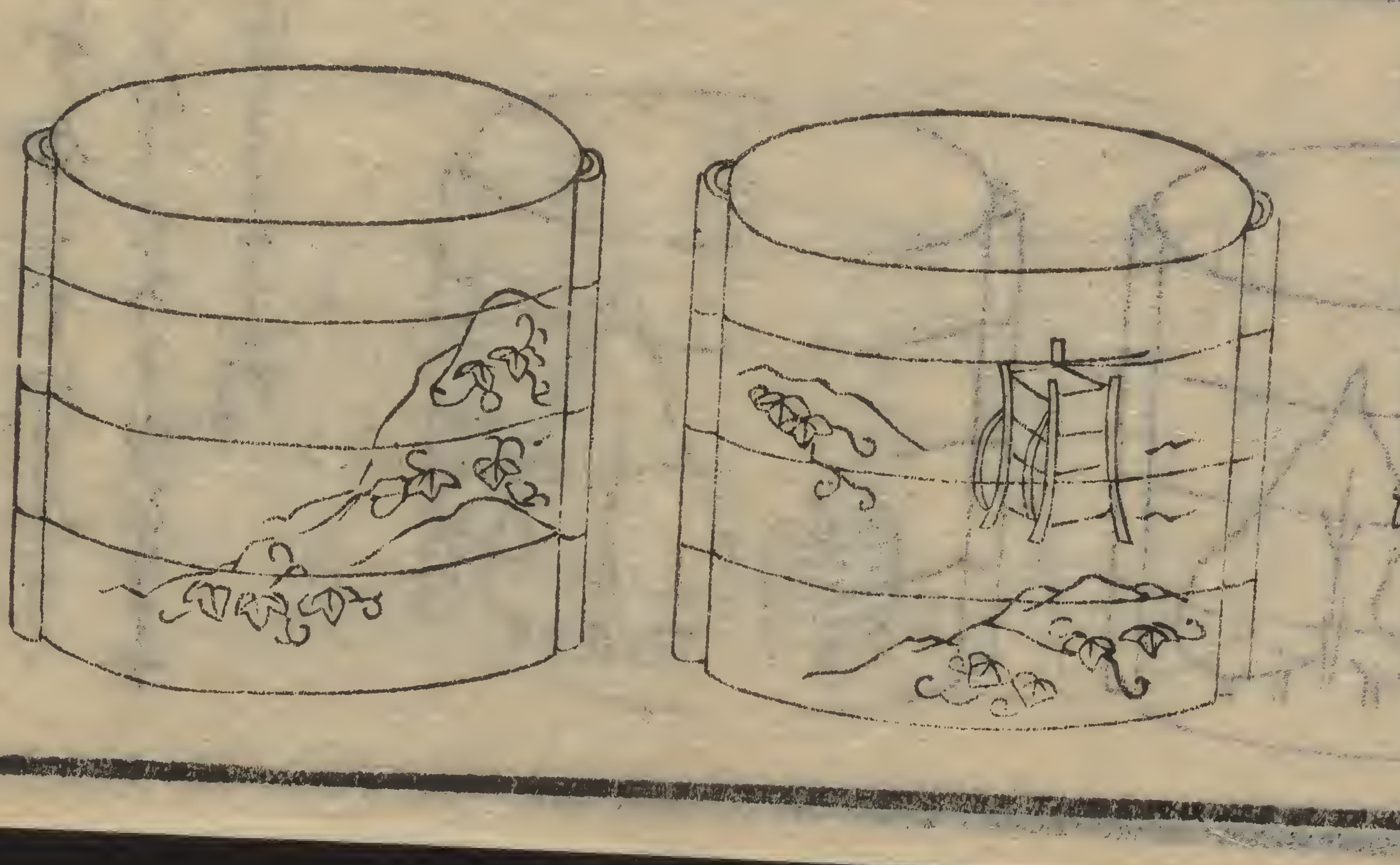
蒔繪師市兵衛　大坂ニ住ス貝ノ
世ニ印篭ナリ

清兵衛　世ニ清兵衛ノバラ印篭ト
称ス重ヲハラバラニシテ合セ
下ヲ上ノ重ニ合セ裏ヲ表ニ合セテモ
其工合吉ク按ヲ得ルヲ以テイスルナリ
印篭ヲ目利スルニハ惣テコレヲ以テ
試ルベシ宝永年間ノ人

春正　次郎兵衛ト
祢ス京ノ人

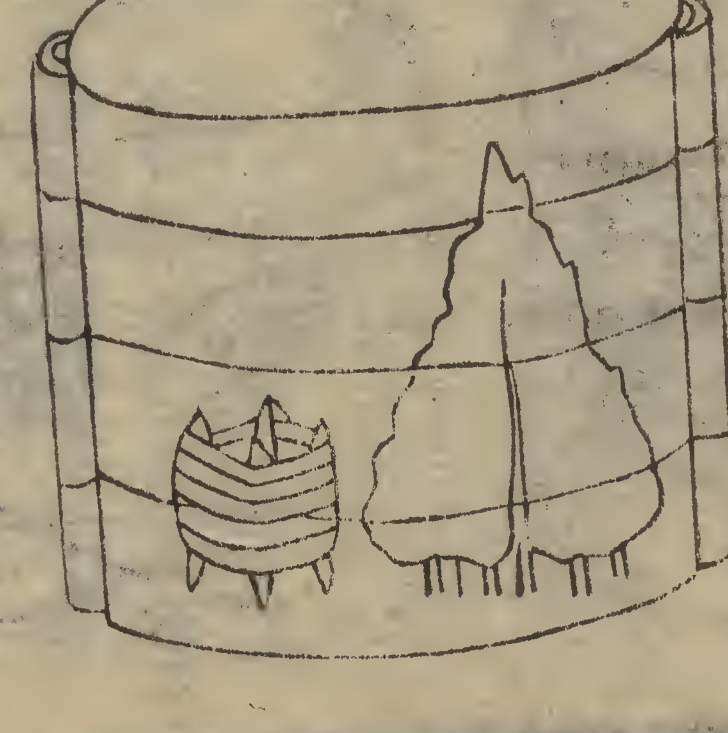
清水源四郎　江戸ノ人コノ作ヲ
世ニ桐ノ蔔ト祢ス

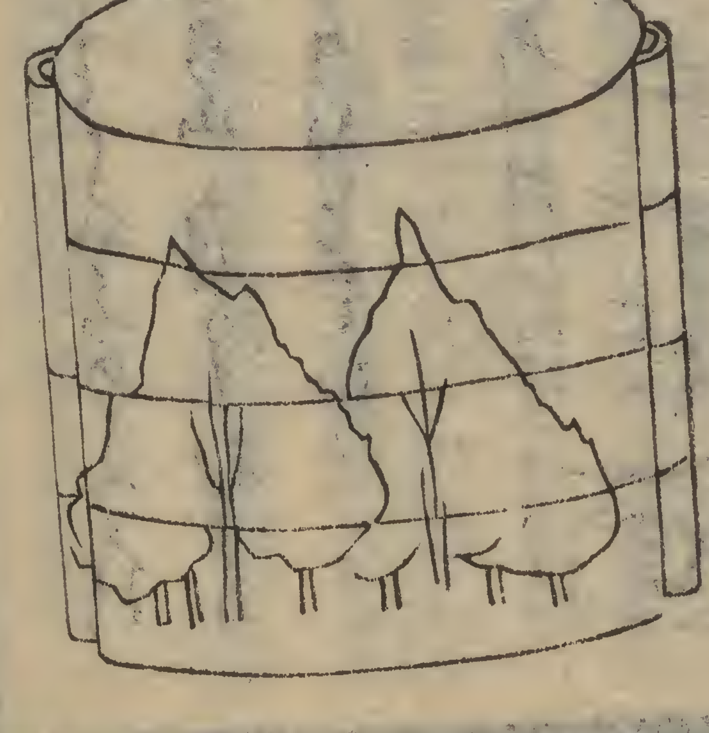
蒔絵師市太夫　加賀金沢ノ住
加賀御扶持人
代々印篭師ナリ清水源四郎弟子
加賀印ロウト云風アリ世ニモテアソブ



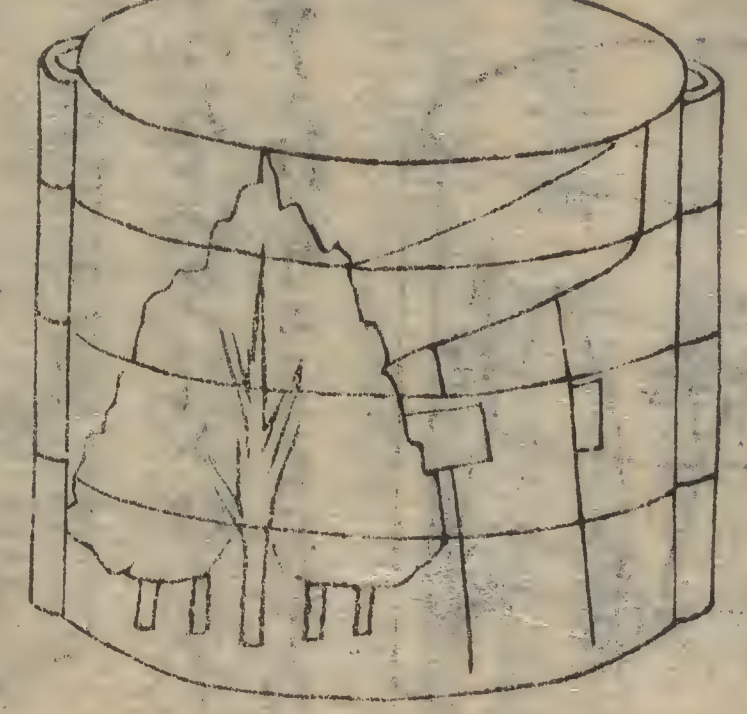
加賀ニテモ香合モコノ人作ナリ
茶人ノキコヘアリ
蒔繪師藤蔵　市大夫長子
同　友之進 弟　藤蔵同市之丞 養嫡
同　庄兵衛 加州金沢　同庄三郎 同上
右ノ外印竜ニ其名ヲ書キコヘザルモノ従
百人トモコレヲ知ラズ今テ其銘アリ
名キヨユルモノ價モ其程ヽ論ズル
モノヲ挙ノ猶鈿螺ノ既代モ銭ハ
琉球　貝入堆朱グリナンノ唐ヲ写タル
長川印竜ノ品下ダリタルニテ其數
キ公ベカラザレバスベテコヽニモラシツ
此書モト好古家鑑識ノ為メ懐中ノ
至宝ヲ専ライスルモノナレバスベテ事ヲ
細密ニ記スコト能ハズコトヽクソヨナ引
用ノ手書ニユヅリテ只ソノ肝要ノモノ
ヲ出スナリ而拙ヲ省ス傲然トシテ
事略ヲ撰ヲ冒ス庶ハ其罪ヲユルシ
ムコトナカレ
○生貝入名物印竜図

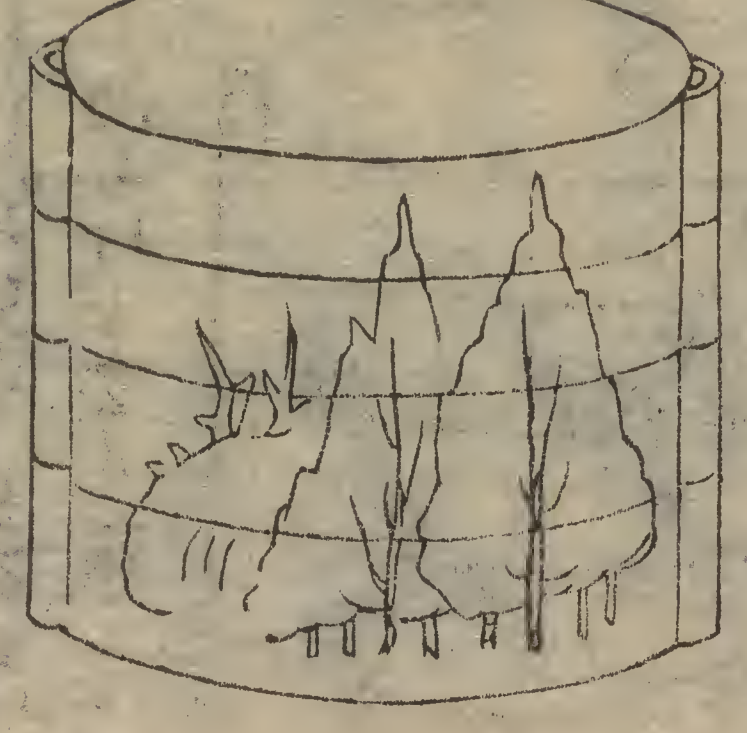
あらたにとわり山の之
らひ〳〵にとろひきまで
ほとゝぎする門

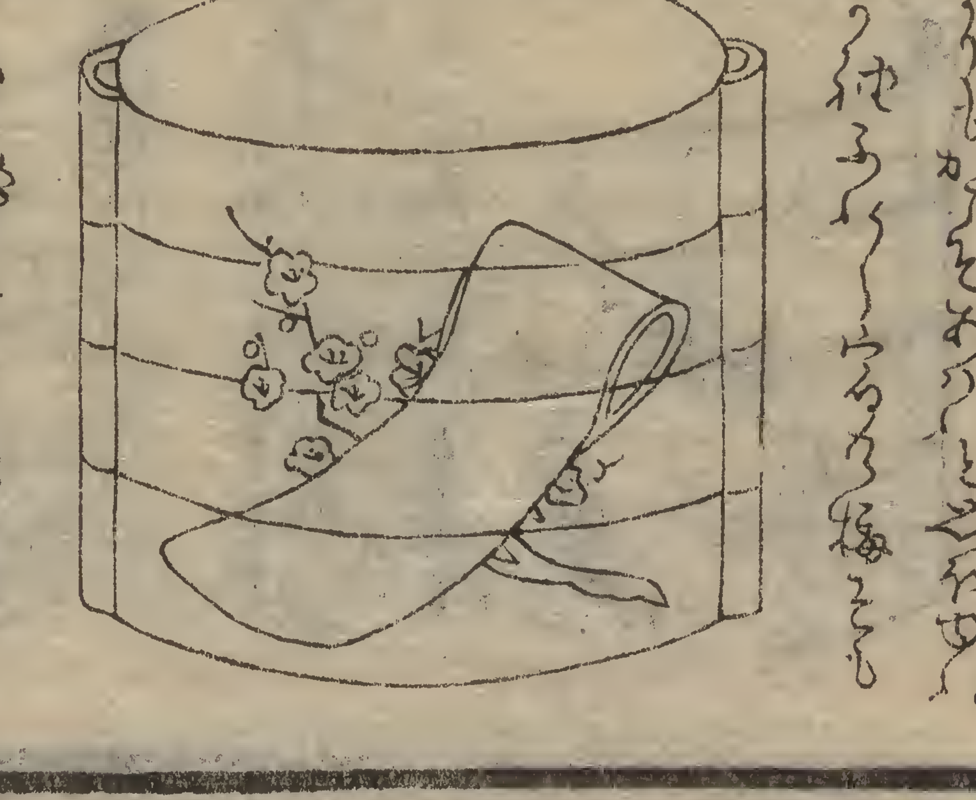




春日りみふわりわりつ清く
よろ川をつきるき
神林志清森









○根附工

法眼周山 吉村氏諱ハ充良探僊ト号ス初周次郎ト称ス大坂ノ人又画ニ名アリ二代目ヲ法眼周圭トイフ

雲樹洞院幹九 姓氏未詳大坂ノ人素刻ノモノ多シ

小笠原一齋 紀刕ノ人近来無双ノ名人ナリ象牙鯨牙ヲ用テ彫刻スルコト至テサイミツニシテ人々ノ及ヒカタキ手際ナリ

三輪 姓氏未詳江戸ノ人コノ作サラ木ノ素刻ニシテ紐通シ穴ニ萌黄ノ染角ヲ入ル子供ノ獅子アソビ蛸猟師ナト称スルモノアリ

和流 姓氏未詳三輪ノ弟子ナルヤヲ作三輪ノ形ニ倣ヘル彫多シ

蘘荷屋清七 大坂ノ人素刻ノ上手ナリ

九郎兵衛 大坂ノ人彩色根付ニ周山ノ刻ヲ偽造ス

根來宗休 大坂ノ人

龍木勘蔵 同上

又右衛門 紀刕ノ人

雲浦可順 大坂ノ人

岷江（印） 姓氏未詳勢刕津ノ人木刻ニ色々ノ奥ヲツヘタル巧ミニ奇ス

假令ハ違ナヲホルニ其眼ツルクト轉
働スルハナハダ妙ユナリ

春周 姓氏居所未詳　廣葉軒吉長 京ノ人

友忠 和泉屋七右エ門ト称ス京師ノ人
牛ヲホル丁妙ニ至レリ

勘十郎 大坂ノ人顔手足ヲ象牙ニテ
作リ衣帯ニ黒且ヲモチユ

田原屋傳兵衛 勘十郎弟子　我楽 傳兵エ弟子

為隆 尾張ノ人喜多右エ門ト称ス人物
ナド衣紋ニカラ艸ヲ推クホリ上ル

河井頼武 京師ノ人今作至極キレイ
ニ摸スル無ノモノ一名アリ

草花平四郎 大坂ノ人中花ヲ彫ス
ルニ妙ナリ

法眼舟月 樋口氏大坂ノ人画工ナリ
サイクハ甚タ巧ナリ

佐武宗七 大坂ノ人彩色象牙木
彫ナニニテモ上手ナリ

柳左 江戸ノ人御挽物師ニキモノ、
クワラ根付ノ上手ナリ

十藏 紀州ノ人　柴田市郎兵衛 大坂ノ人

正直 京師ノ人　同友 上同

印齋 大坂ノ人ふご屋傳兵衛ト称ス
象牙狙公ノ作者ナリ

是楽 江戸ノ人　三小 大坂ノ人

吉兵衛 住居未詳　辻 同上木彫バカリ
ニテ象牙ナシ

畑友房 作及津山ノ人画師勘兵衛
ト称ス又リモノ根付作人

次郎兵衛 大坂人角ホリ　亀谷肥後 同上平助

和性院 大坂人彩色ホリ　牙虫 居住未詳
コノ銘アリ

清兵衛 京師ノ人世ニ滑兵エ彫
ト称シテ名高シ

近江屋七加兵衛 大坂ノ人　玉治 京ノ人

大黒屋藤右エ門 京ノ人　友乱 京ノ人

霞蔦 居住未詳　宜元 同上ヲ銘アリ

長尾太郎市 紀州ノ人
小笠原ニ有身子

竹内弥須平 同上
彩色根付師ナリ

光春 京ノ人

出目右満 江戸ノ人御面師面根付
ハ自然ノ妙ヲ得タリ又
出目上満ト云ルアリ右満ノ子ナルヤ
凡出目ノ銘アルモノ外ノ形ナシ

豊島屋伊兵衛　大坂ノ人スヒガラヲイタソ 根又銅ノ小リカ子ニテ
一楽ノ如ミモノ、如ノ組タル根付ノ作
人ナリ又瓢箪モアリ

唐物久兵衛　泉州堺ノ人鋳物師 唐カ子ナドモ、根付

一楽　泉州堺ノ人土屋氏望蘇軒ト 号ス藤又ハホヲキ籐ニテ組物
ノ腰サゲヲツクリ出セリ又瓢箪ナド
ノ根付ヲ組物ニテツクル

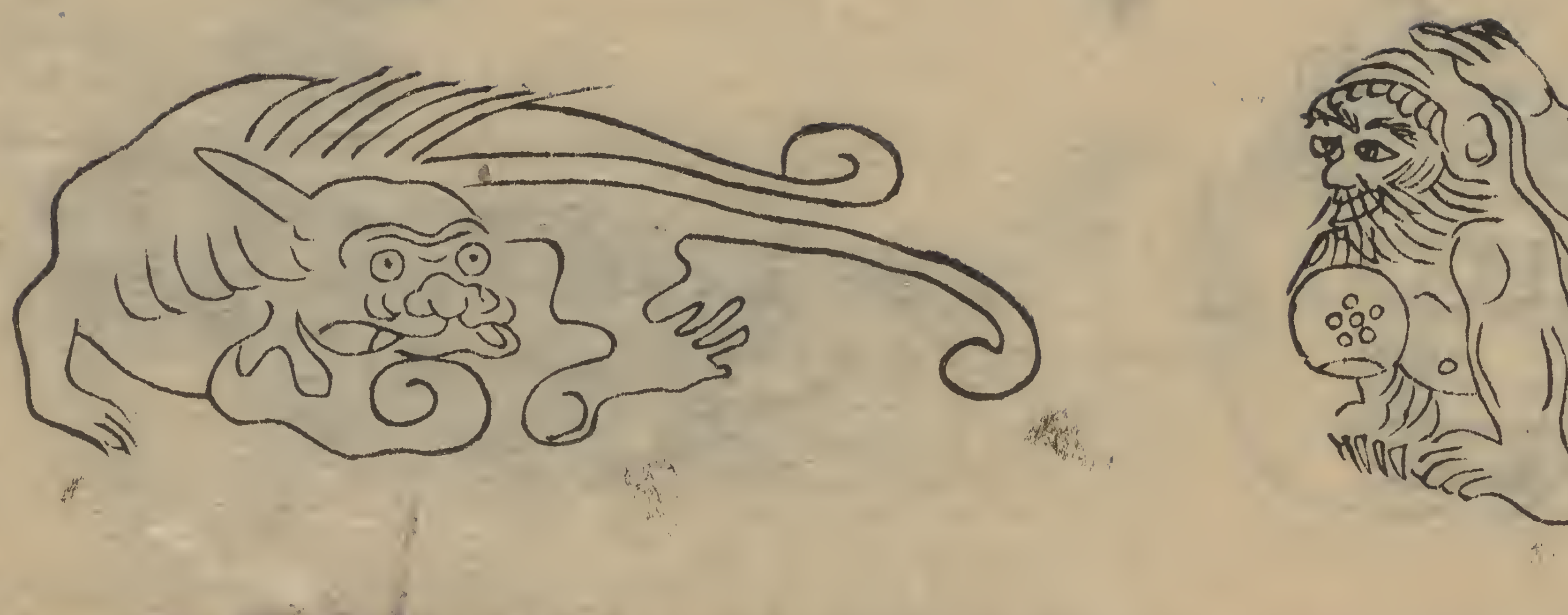
中山大和女　江戸ノ人象牙ノクワラク 根付ニ獅子竜ナド至テ
細密ニ針尖ニテモ彫ニシタル
彫ニシタルモノナリ

宗和　名童迄金森長進ノ男従五位
下飛騨守剃髪シテ宗和ト
号ス退隠ノ後山城宇治ノ里ニ住
ス茶道ニ高名ナリ八世ノ人白ク
知ルトコロナリ又清閑ニ棄レテ宇
治ノ茶ノ木ヲモツテ茶ソニ女ノ躰
ヲ彫刻ス其風流ノ刀法世ノ人コレヲ
賞シテ宇治人形トイフ

立圃　野々口氏京師ノ人雛屋ト称ス
寛文年中ノ人俳諧ニ名高シ
書画ヲヨクス又彫工ニ妙アリテ根付ヲ
彫刻ス

奈良人形　南都元興寺ノ大門ノ古木
ヲ以テ彫タルモノナリ

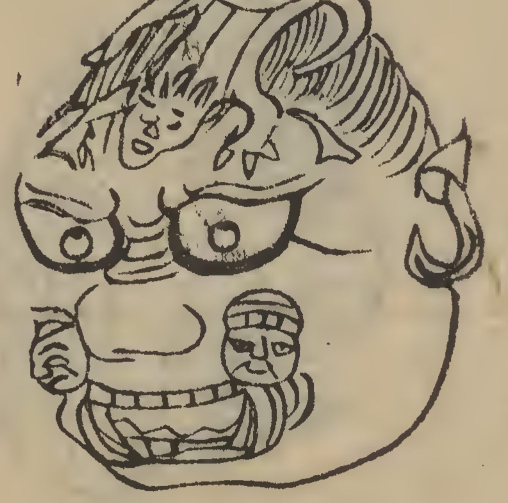
周山



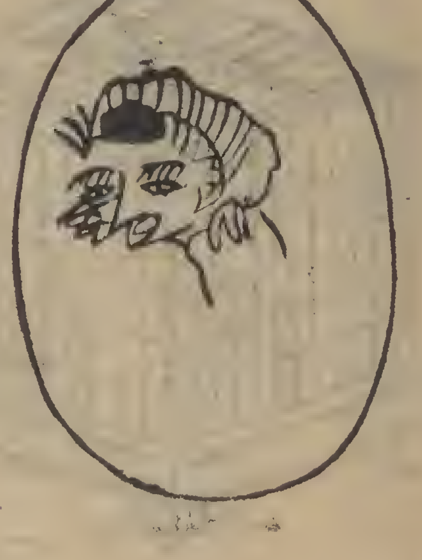
飛龍



元興寺假面



啐啄

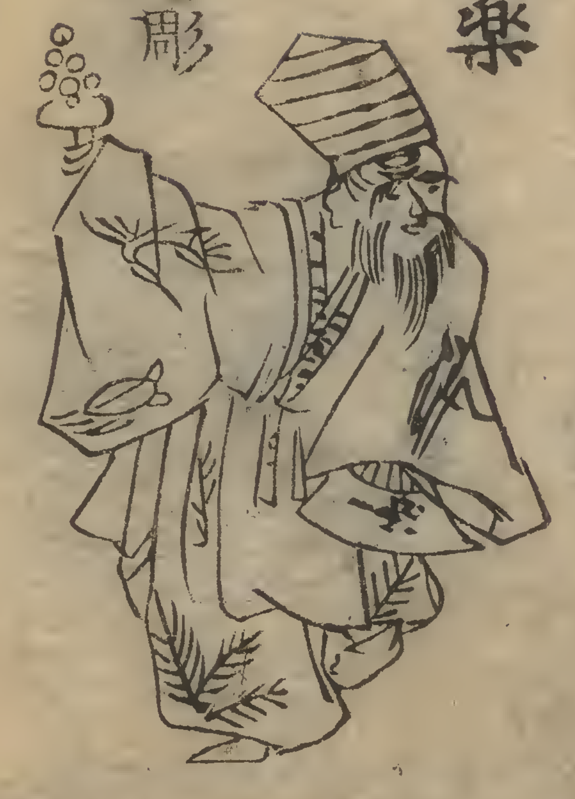


人魚



猿楽

一斎彫



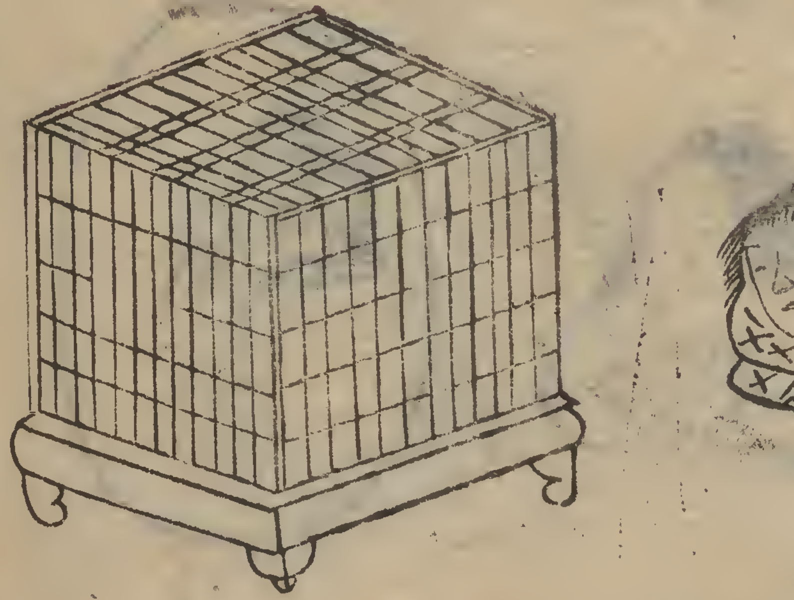
拍毬



俳優



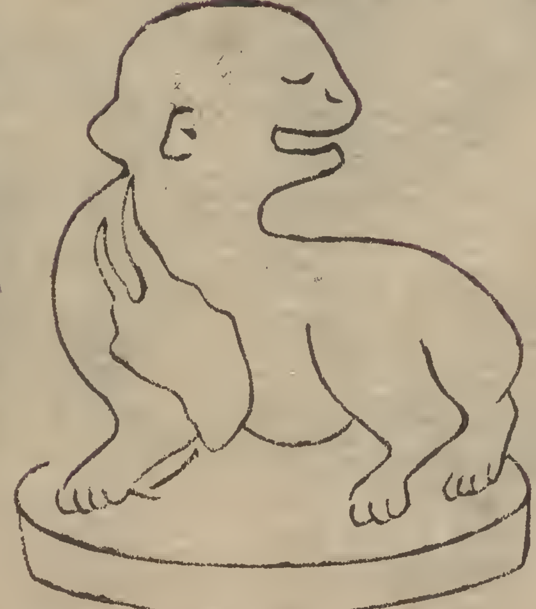
樊籠



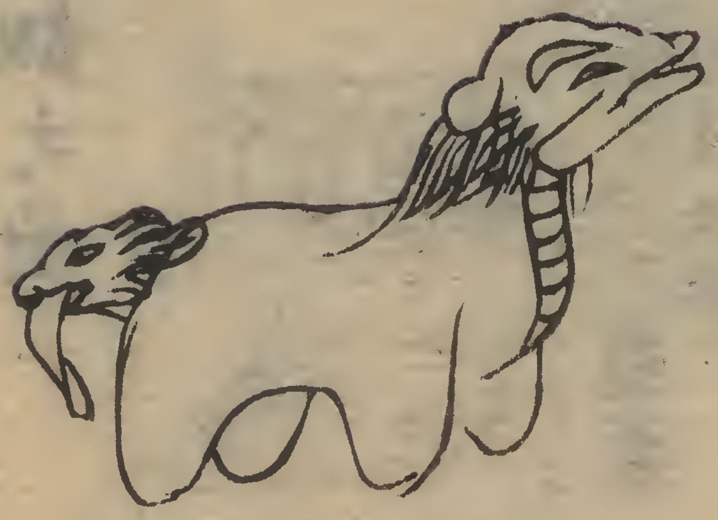
○唐彫根附図

裏印












作皇泰
以自常
捕



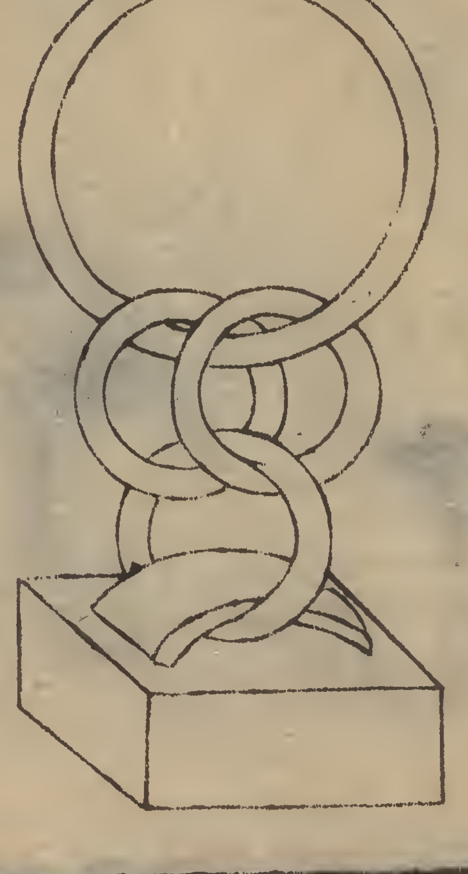




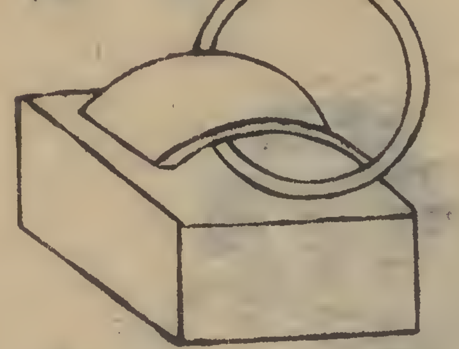
○印鈕之啚

壽亭侯之印及関南司馬皆用此鈕

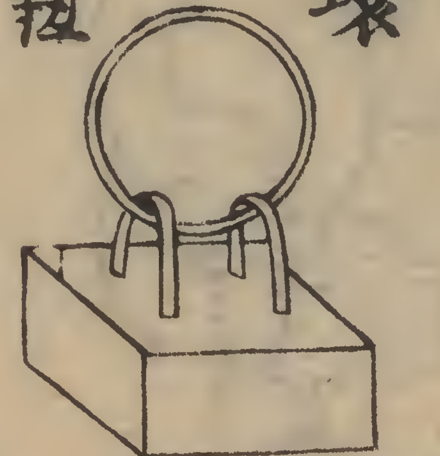
連環



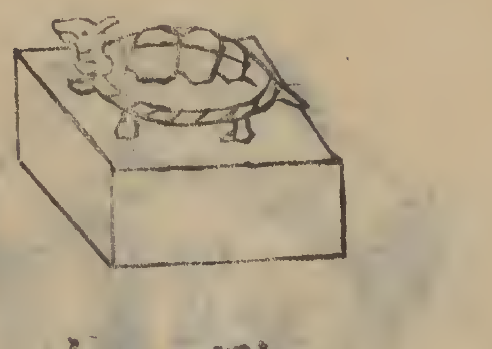
環鈕



環鈕



亀鈕

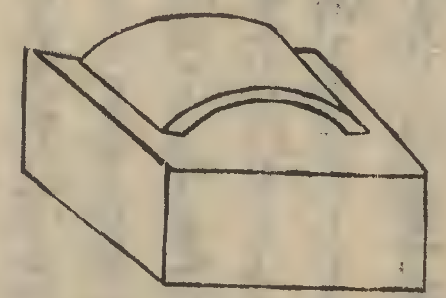


駝鈕



瓦鈕

鼻鈕 トモ云



魚鈕



辟邪鈕



牛鈕



鹿鈕



○緒〆玉(ヲジメダマ)

珊瑚(サンゴ) 俗に珊瑚珠といふ雲根志に出るわれ本也やゝ子す交易の人亜媽港(アマカウ)と夜上とす於中於いもふ絲するものゑくやすくこゝす枕さまて珠のくちゝの形をと吹出するの如くし又唐合に絲するものあるさてあくむてさゝる本なり血玉と絲ける所も以前なりものゝ如く紫色のとのあり美さんで

琥珀(コハク) 桜ろ雲根志さとそとも俗をと上とす新浴へとともろ絲とも絲けり持なり

瑠璃(ルリ) 考え本る老道る土老ち表さろり

瑠璃珠 其おいさんくも節なり上心でもまあとを古類もとりあうち其おへ乃新又ハ地下にてもしうえるに珠の中くらす紫さ紺がちなるをうつやきて俗称するをとし世をハちまさ…なるまさろんのできとのなり吹ろおハろとこえ瑠璃ろこ中まえあれどもすりしこえ大名第の猶子のごとし其薄き大秦さ出二赤白黒黄緑縹紺十種流離(ルリ)自然之物とあまそも…ゑるわけづく縹

碑磲(シヤコ) 俗名なり 通志考に曰ば車渠ハ川石とふ廣き海の内なる大いさかより堅きまゝ本のまゝ次をのとあるまゝあるまゝを根の筋精文爾気とあるをいふえまで海瀬のさいてその其かうずけあらうく綺なるもやいまさ其あとものあふがれハ貝の石にうつ洋にてせずて其おふ出ろへ海辺に磨きて作ろるなおて

水晶(スイシヤウ) 其此お事と新をすまゝ雲根志をるく見にかう便の名なり

砂金石(シヤキンセキ) 一よみ空ゑともに本さ糸此ありなるへ剣かり其おうてとらへと金にあれ為まりふ本素褐さ…こまて粗まの脱ゐのことく光輝あり粗しき粗まの此とらさひろ粉の光置さるるくわぞやかなりおせくもとらぬし帯を出かて骨硬をと清するの印を筆をく三平景金本美人の立本装ひしと云ふまり手器を作りたそ信ずるとらもはまき人の清賞まて庸人の好ぶさおくぶす出ぬのうけらよづきて其ざまさえてとまわめそとえりなるすは求めて己をと出ぞせ

星珊瑚珠（セイサンゴ） これハ赤き地に星のごとくなる星すあるを はなはだめでて高直に價いたしく まれしこれ紅毛舶來の品まゝく 西洋より出する希なるなり

雲南石（ウンナン） これは文さまざまの彩の出るをあつめて磨くなる そのむかし出雲の国のまゝや またずいぶんにえんといふ所の地より出る

瑪瑙（メナウ） 色種々あり 紅白あるか これを津軽石といふ 津軽より出る 金剛石ともいふ

猩々石（シヤウ〳〵） 舶来のものなり 瑪瑙の ひかりなをさわやかにして その あかき事猩々緋のごとしとて そのまゝ名のよしにて 西洋舶来

キンパク これ琥珀のいろ〳〵く 螢するものにてその中にて その あまた年をへて研磨と磨き出し たるにて虫など玉の中に あらはれて鮮なる事 琥珀 のごとく あらはし あかく鮮明にきこえとしる ものを金珀といふなり

ロハク これハ紫色にて斑あるもの 琥珀の一種なり その色の色赤に似たるとりて 琥珀石といふ

南京石 又瑪瑙ともいふ 但し石に光沢あるものなり

ムシノス 又カラフト玉と名あるもの 黒き赤きカラフトより出る石 より産する也 昔の瑪瑙のごとく その中に虫のかたちあるをいふ 虫のるを又蝦夷よりもあるよし 悉猫ハ希

夜光（ヤクワウ） ものをいふ 是を其にて光 ものといふ

真珠（シンジユ） 玉中に有貝より産すると あるいは石の肉より出する石 まゝく小粒なり 緒ト下より出る 海の外さき宝のや 何の貝より 産する也 又決明より出るとも もたなることのあるやまづく 洋

七寶（シツハウ） 舶来のものにて高価 なり 但し岩

雞冠石（ケイクワン） 緒ト云物なり

蠟石（ラウ） 篆印に用ゆる石なり 古渡のよろしきをとるべし かくべき なとのりやうと 銘して結下とす

銀沙石（ギンシャ） 沙金石のごとくこまかく [illegible]

平戸（ヒラド） [illegible] 結下とす

羅漢（ラカン） [illegible] の像と [illegible] 人の [illegible] のごとく [illegible] なり

青瑪瑙（アヲメナウ） [illegible] して [illegible] なり

金物緒下（カナモノヲジメ） 金銀 [illegible] 目 [illegible] 眼 [illegible] の [illegible]

石英（セキエイ） [illegible]

して結下 [illegible] の [illegible] より出 [illegible]

白珊瑚珠（ハクサンゴ） [illegible] 珊瑚 [illegible] 白し [illegible]

崑崙石（コンロン） [illegible] の [illegible] を [illegible]

琉球珊瑚珠（リウキウ） 又根 [illegible] 珠とも [illegible] の [illegible] 巣の [illegible] 珊瑚のごとき [illegible] あり

助玉（スデ） [illegible] 人の [illegible] のなり [illegible] 好 [illegible] 瞞 [illegible]

ガンギ玉 [illegible]

トンボ玉 [illegible] なり [illegible] の [illegible] の

ところされ
ゑくらり

印花玉（サラサ） 此玉のくさりむのごとし紋 まことにさらさのもやうのごとし
そでも縁
其のあり

絲屑玉（イトクヅ） 絲屑 其色々のいとくずのごとし
りしぎの色のよふ白線 とす千(ち)條どうゆうひろがりし
組のよふの小お(を)隠(かく)し紐子

柘榴石（ザクロ） 色柘榴志のごとく出くるし
紋トも有 肉(み)の中ゆへ此石の珠(たま)もし
今の石榴の実のごとく 折(をり)ハ一せんに
瑕女(キズ)あり 石の破(わ)れハ石のゆえ新旧
いつも此石とし白うし

孔雀石（クジヤク） 色柘志と出くるもの
緑青石（ロクシヤウ） 白手
紫水晶（ムラサキスイシヤウ） 同所
て此石とあらず
色ふうくらくとしく白うし

大理石（タイリ） 石質くるし色山より
出ることもて 此ふあるき
流のあくけらと報そ白き
流のあるとなり 此色なで
とほりく多くいくまとり

蛇石（ジヤ） 蛮名スフカステニとし
白く亡石のあさとの

なりけよの瘡疾の胞をとよみ切
あうしらまろふ志すべしこれをとる
中よりすれバやうて法とらく
るけ志すなり 前寿とらふべし
母人蛇のりはちある石なりとらず
白き色ありて塗しくさず也

凝水石（ギヨウスヰ） 紗の白山まで泉山の西房
のかたぞうとうてもくるらやうて
らうて石よちの根室の地なるが
なりかくしも白くてもあるし
らまとを紬のよ水布小ほそれに水
とほしし水下の氷とまた水なるし

薫陸（クンロク） 白き背の中より瘡痕の色
をくる製す

雀石（スヾメ） 石名赤弾雀の胸のごとき
色ふとて白きの色あり紙
紙の石きてでか
てまれなり

石子貝（ツツガイ） 貝とこうきてる石のまて
まさに珠のごとし 紅毛
よりきたると

南金涂附玉（ナンキンツケツケ） やさとのまて山水
うら竹色の彼背
あり 伊万里陶のこの絵本し

鳳天（ホウテン） 伯瓦の鳳凰のかしらの
骨とらふさう祥瑞の
そのを居べる白あらず色ゑかく
山の精の頭骨なりとし 色六尺

瑙のごとくして理あり又は[illegible]
くろ西方の国より[illegible]

葡萄石(ブダウ) 色は紫[illegible]けれど
似たる果ありて その[illegible]
なせるなり[illegible]出る 緒〆に用
ゆ一顆にして蒲桃(ブドウ)のごとし

玻璃(ハリ) 白玉に重なり[illegible]
[illegible]のあり[illegible]の珊瑚
[illegible]のまへ[illegible]の名を
つけ[illegible]玻璃[illegible]の
[illegible]に[illegible]と称して[illegible]
ならん

眼石(ガン) [illegible]緒〆に
作りたり[illegible]眼のごとき
[illegible]眼石
[illegible]の
[illegible]なり

青石(アヲ) [illegible]の色[illegible]
[illegible]性軟らかにして 脂
[illegible]の[illegible]

孔雀胃(クジャク) [illegible]孔雀の[illegible]
[illegible]

鳳凰石(ホウワウ) [illegible]白[illegible]
[illegible]のごとし

[illegible]
[illegible]価もまた
[illegible]西洋

イニス 蛮人の髪(ミヅラ)[illegible]珠[illegible]
[illegible]
これで造れる[illegible]
[illegible]
[illegible]緒〆[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]イニスの名も[illegible]
[illegible]
[illegible]なり

牙玉(キバ) [illegible]緒〆[illegible]
[illegible]牙と[illegible]
[illegible]珊瑚珠
[illegible]
[illegible]海豚
魚の牙[illegible]

斑玉(マダラ) [illegible]の斑文[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

鬼餡餅(オテアンモチ) [illegible]
[illegible]なり
[illegible]

ツヨし石　内白瑪瑙のごとく外は漆のごとく
内さんう外皮は紅ゐの色

香玉（ニホヒダマ）　薬種を細末して煉合せて玉とし糸をとほし
なり　さま〴〵薬気を込るあり
もちひかたツツ必しも腰に
うるゆ

菩提樹（ボダイジュ）　天竺より来る木の実のよし
ツブハ木患子の実にて

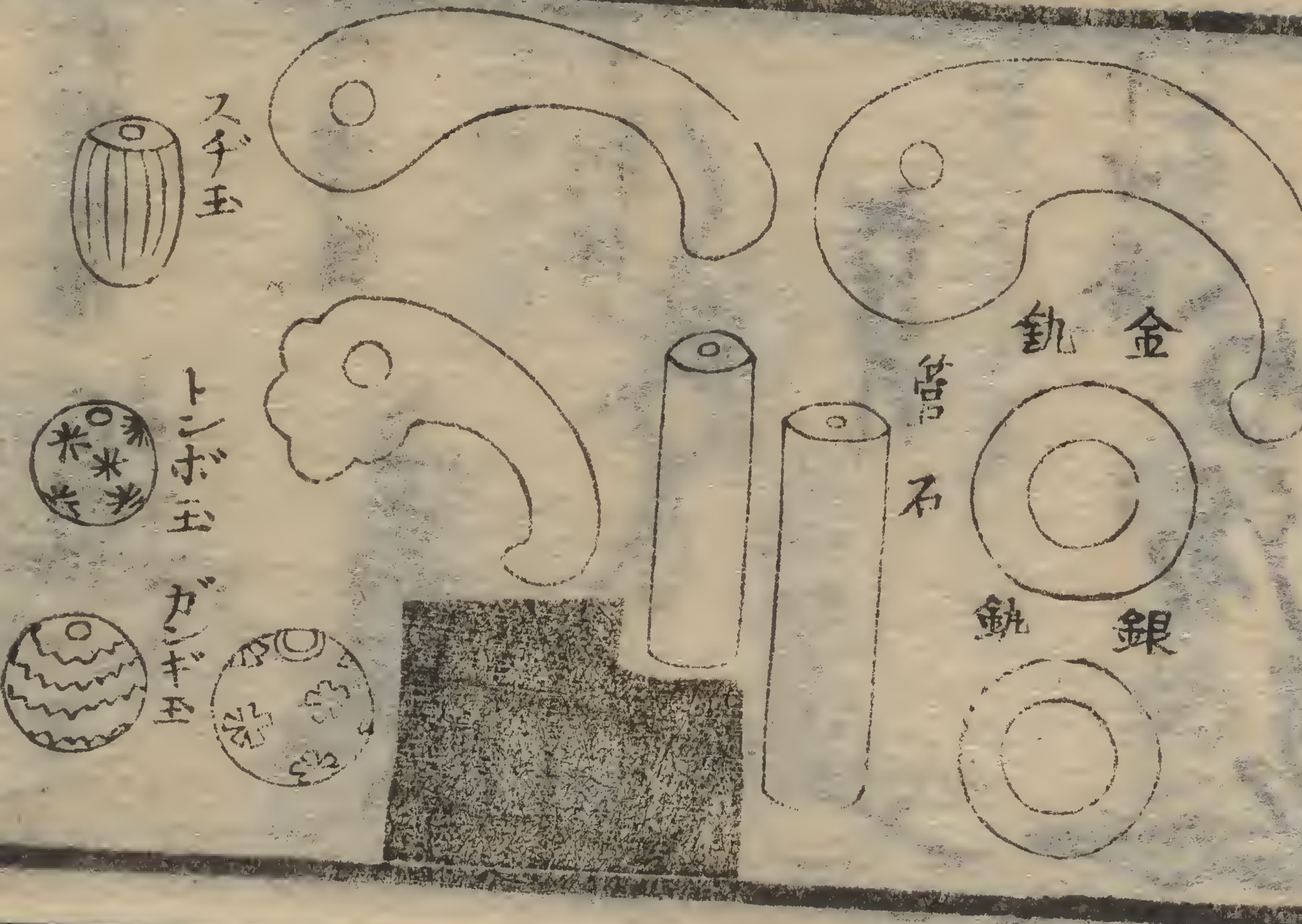
唐ツブ　即ちからの樹のたね
和産のものもみな唐より来れり
を緒にとおしたるものツブ
しらへその八釧おとろへて
薫うつして和のツブより
いかものごとくして和のツブ
あかりこまざ唐の樹の実なり

桃核（モモノサネ）　つや手拝なし
桃をきさ猿などを刻く
緒にとおす根付の作なり

和瑪瑙石　よりきたる　紀後八代の富みの家
はかもよふん

曲玉（マガタマ）　日本書紀云右三神号羽明玉神奉迎而進以瑞八坂瓊之曲玉又曰賜八坂瓊曲玉及八咫鏡草薙劔三種宝物
これよりて曲玉の種々

佩垂之部終



の故事国書等にみゆる神家
の秘書に曰まがたま曲玉ハ玉すべき
おそらく
を参考して曲玉の名あり
いは浄のあとちかく
あるもまた
都合一百品　管石類五十品

茶人花押續襍

武野紹鴎

仝 宗瓦

千利休

千少庵

田中宗順

田村宗珠 珠光男

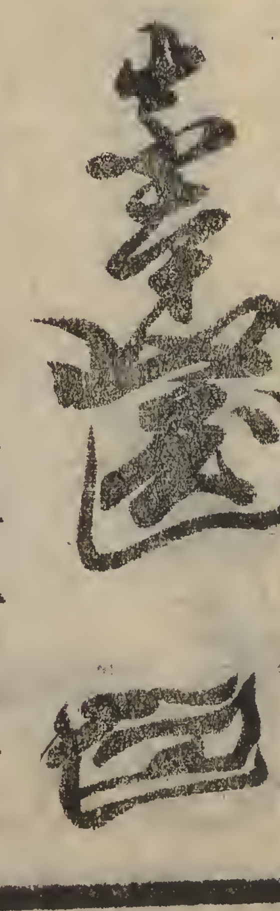
木村屋宗悟

浡北之坊良佐

仝常住坊

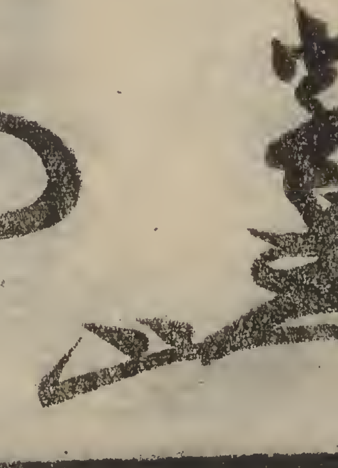
仝本住坊

今井宗薫



宗久ノ男片桐主膳正舅ナリ
古渓和尚ニ参学ス

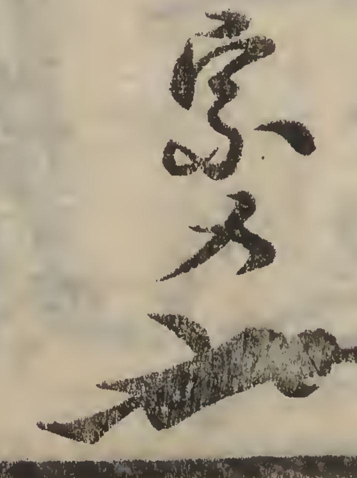
山上宗二



山科宗甫

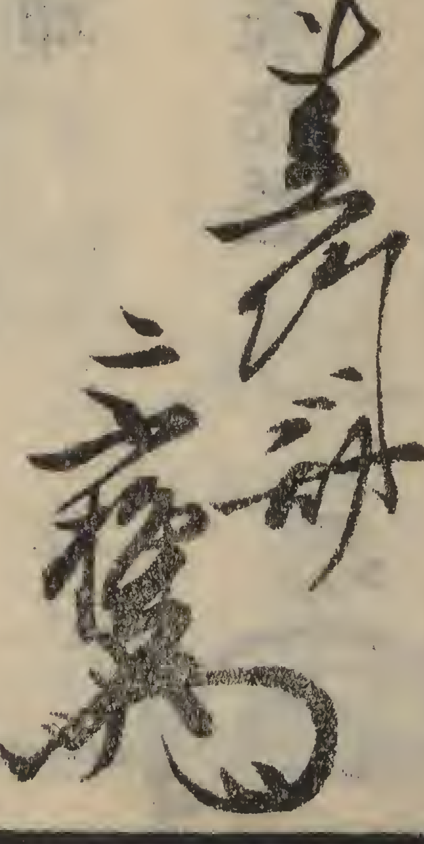


万代屋宗メ

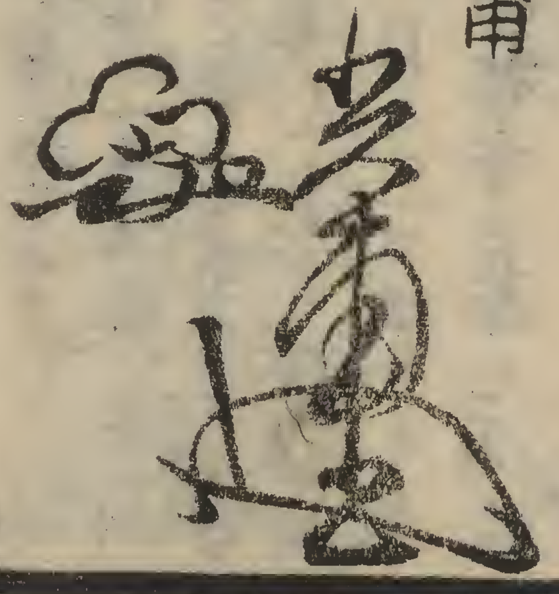


有馬侯藩中宗安外孫ナリ
後宗毋貝ト改ム

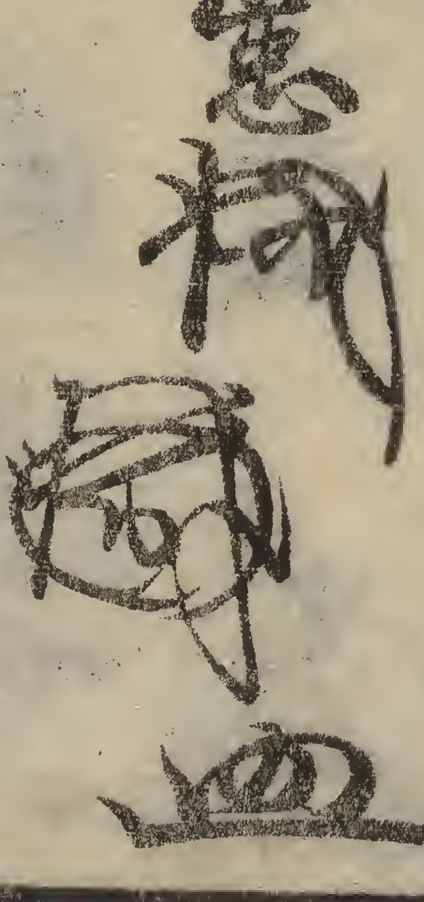
下田屋宗栭



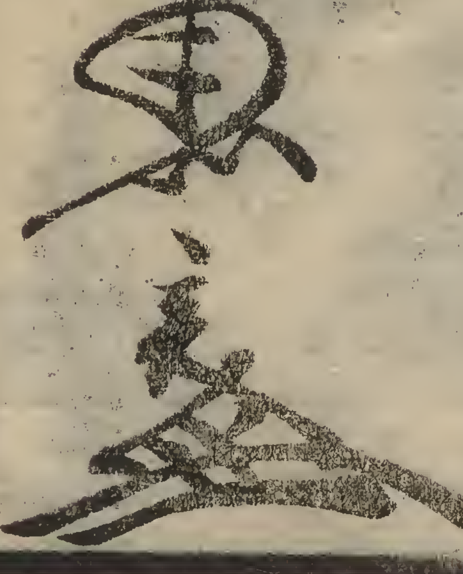
本阿弥光甫



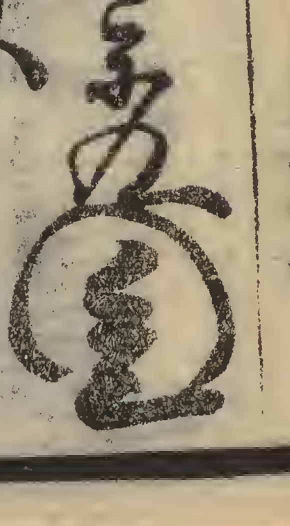
瀬田掃部

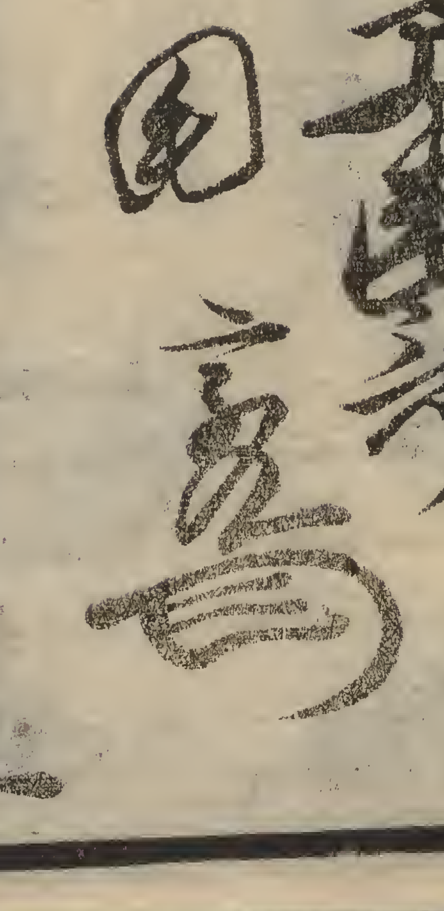


針屋宗春

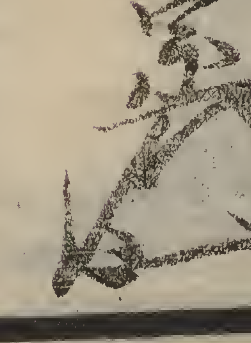


津田宗久



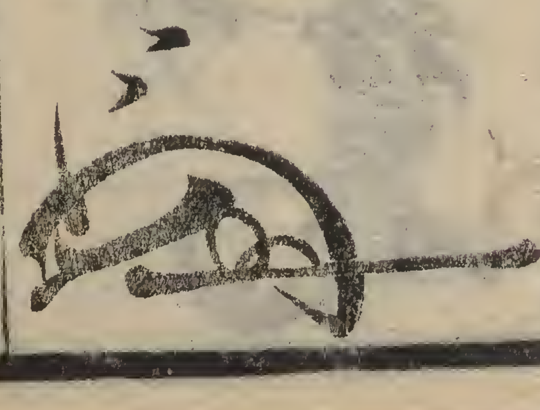


一尾伊織

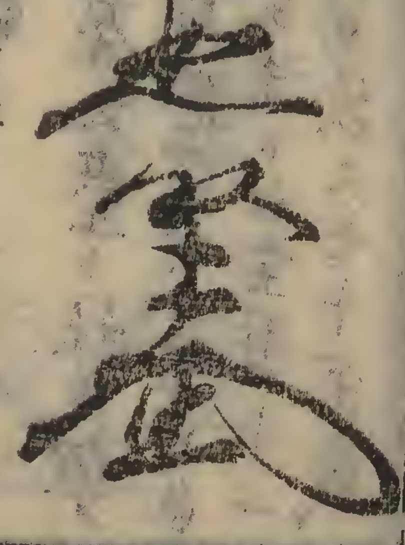


一尾淡路守通春ニ男茶道ヲ
細川忠興侯ニ学ブ名ハ通高
徹斎又一菴等ノ号アリ千二百
石ヲ領ス一尾ノ一流ヲ興スト云
文禄二年三月十三日卒ス九十
一歳駒込高林寺ニ葬ル法名
宗碩

灰屋紹益

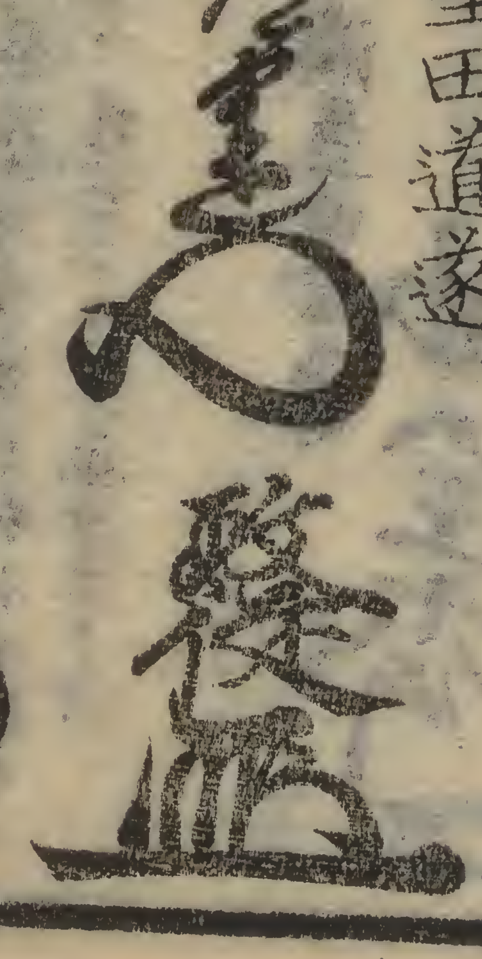


藤村恕堅

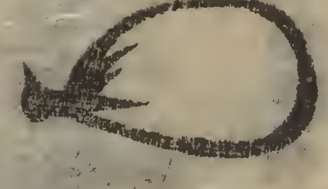


庸軒ノ男源之丞ト称ス茶ヲ
父庸軒ニ学フ

堅田道遂

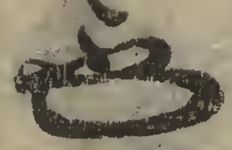


清水栅溪



佐々木道珠ニ学フ讃州丸亀
侯ニ仕フ江戸ニ住ス敗素菴ト
号ス天明四年四月没ス

大野道可



比喜多松斎

堅田祐菴ニ学ブ戈仙ト号シヌ不宣菴ト号ス

太良菴良斎

傳馬屋曲全斎千村伯就翁ニ学フ尾州ノ人ヌ画ヲヨクス

天満屋曲全齋

尾州ノ人天満屋九兵エト称ス初メ原曳ニ学フ后怒心斎ニ学ビ自流ヲ立テ曲全流トス宝暦十一年七月十四日没ス七十余歳

二階堂桝菴

六隣又圓窓菴寿ノ号アリ尾州名古屋ノ又六ト云者ノ隣ニ住スルヲ以テ六隣ト号ス

矢野仙斎

織田道八

織田有楽ニ男主斗頭頼長初左エ門ト称ズ篠阿弥陀佛ト号ス退隠シテ洛東ニ住ス元和六年九月廿日卒ス東山長寿院ニ葬ル

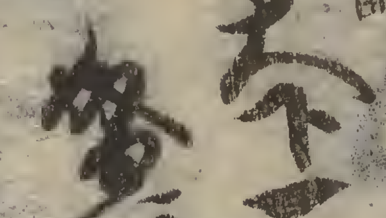
織田長好

道八ノ男初メ三五郎ト称ス父道八ニ学フ慶安四年五月廿四日没



盛阿弥　塗師

紹甫ト号ス宗旦ニ学フ

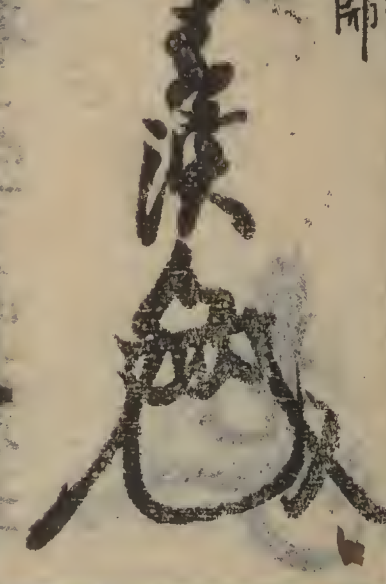


宗哲　塗師

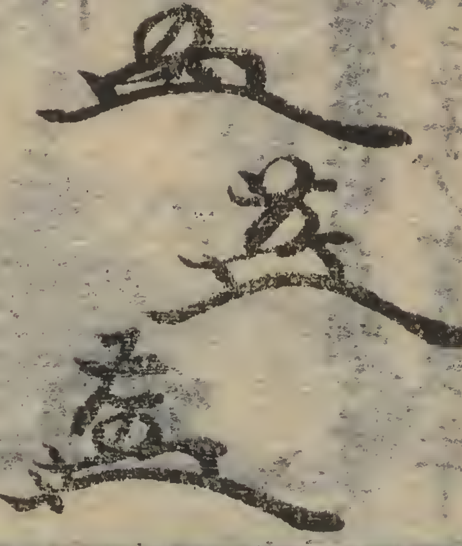
宗旦時代八兵エト称ス漆翁又方寸菴勇山ト号ス又好ンデ誹諧ヲヨクス



春溪　塗師



杢本見休



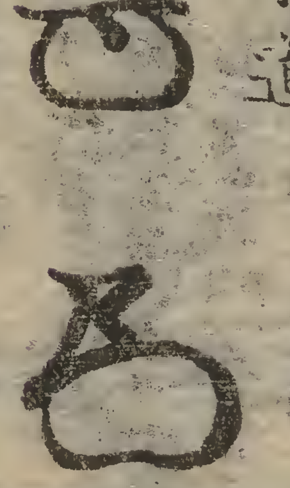
織田貞置侯ニ学ブ抹茶軒抹兼ト号ス江戸ノ人正徳五年三月没ス

仝二代目

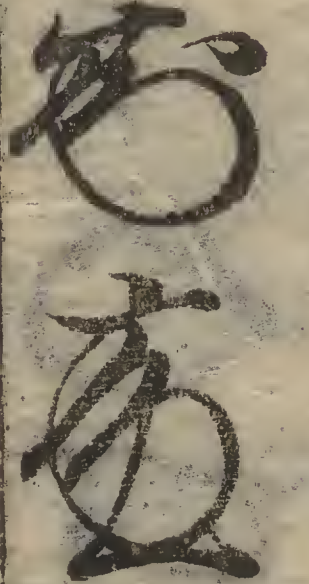


抹兼ノ男父ニ学ブ芋ノ泉ト号ス尾陽公御茶道

山本道傳

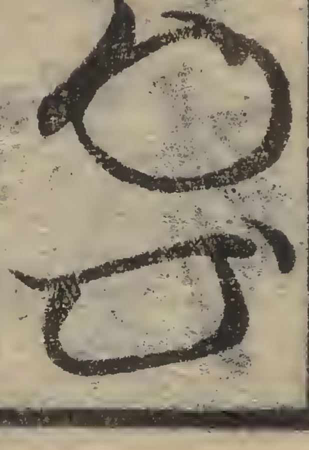


仝二代目



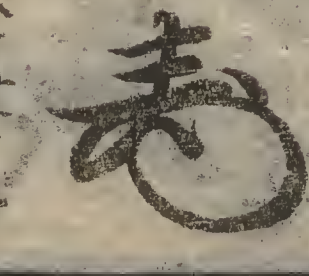
齊藤長八郎

藤懸壽木ニ学ブ代々御旗本タリ聴雨軒又哩々与実名聰模壽木ハ負置公門人タリ明和三年十一月四日卒ス七十四



梶與九郎

梶日斎聴霜軒ト号ス又直下号鉄植老公羽ト称ス実名正峯代々御旗本タリ茶ヲ聴雨軒ニ学ブ

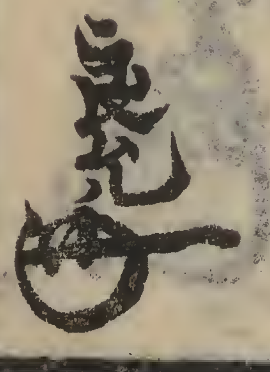


片岡九八郎

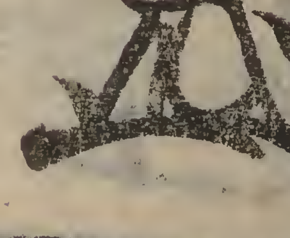
初清竹ト称ス聴壽軒古明ト号ス茶ヲ聴霜軒ニ学ブ寛政年間ノ人



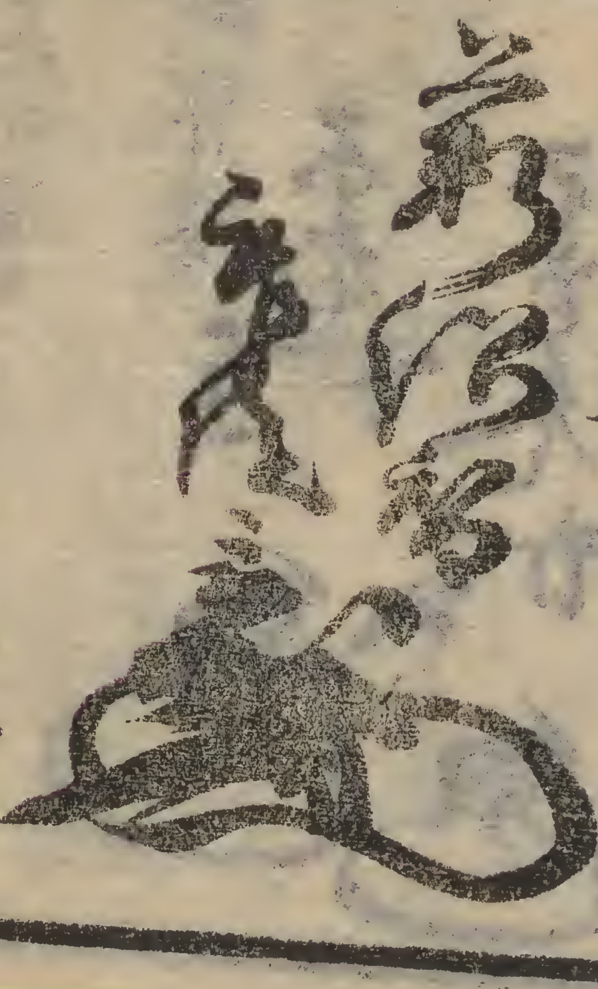
三谷宗鎮

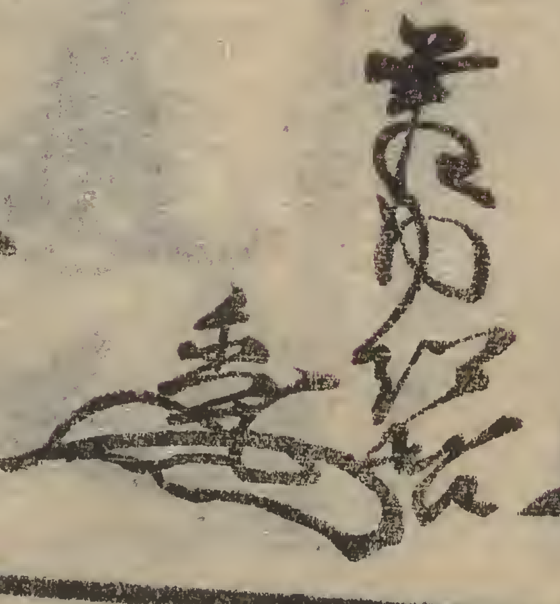


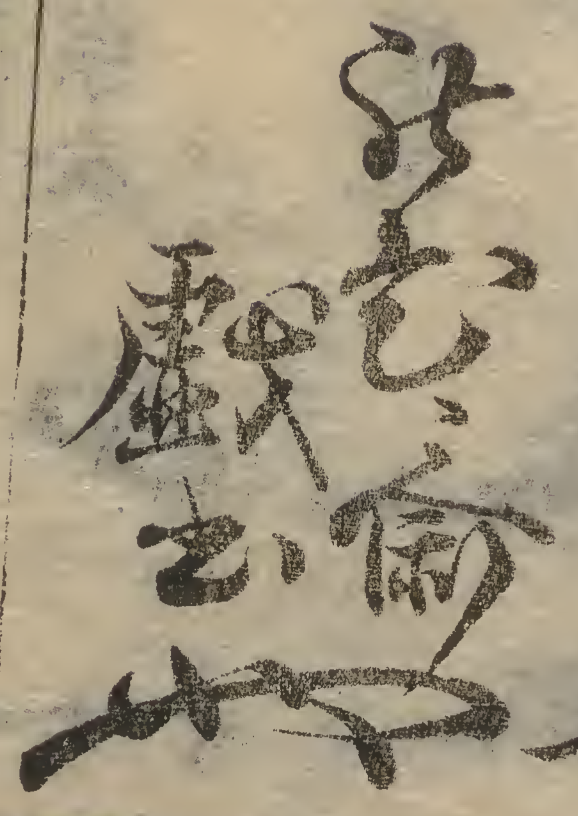
原叟宗佐



此老斎宗堅

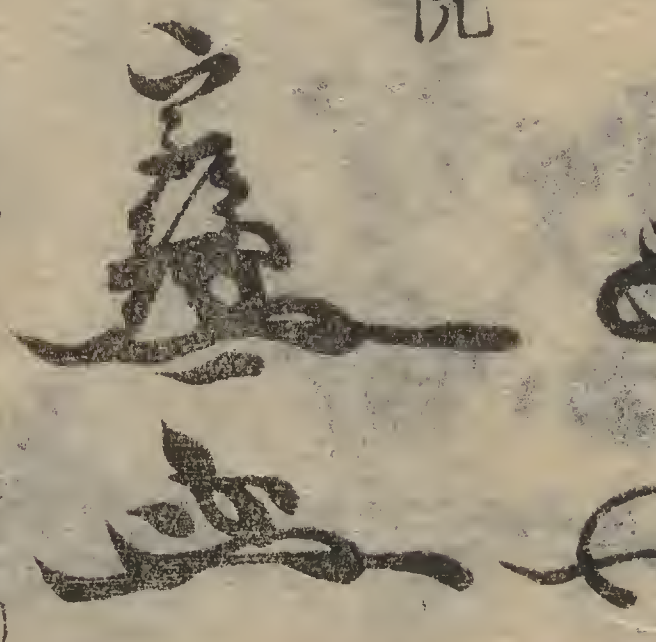






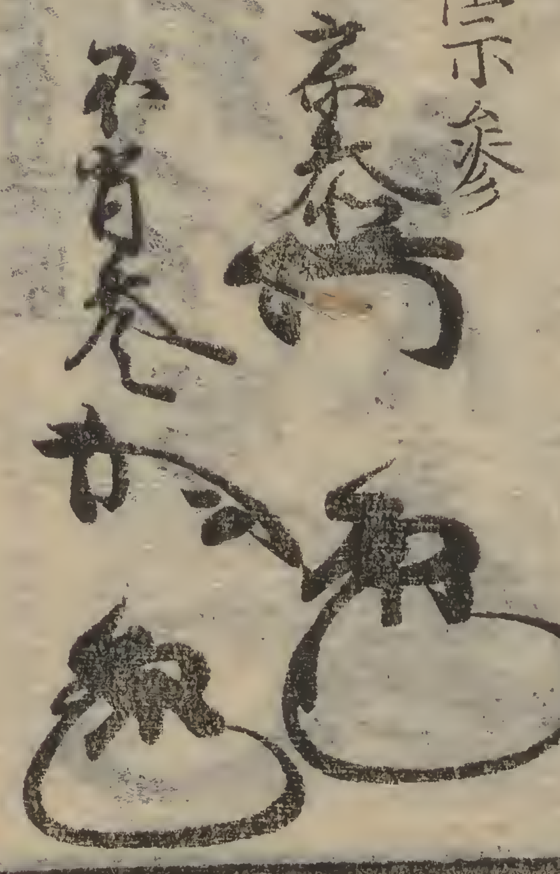
久田宗全

仝 宗悦

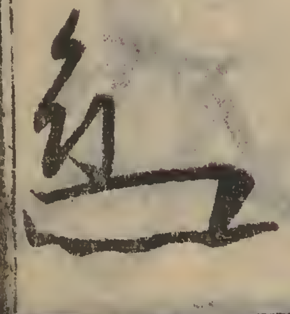


久田宗也ノ男流滴斎又淳滴
紹慶ト号ス明和五年四月
廿六日没ス

仝 宗参



漸至菴 観山

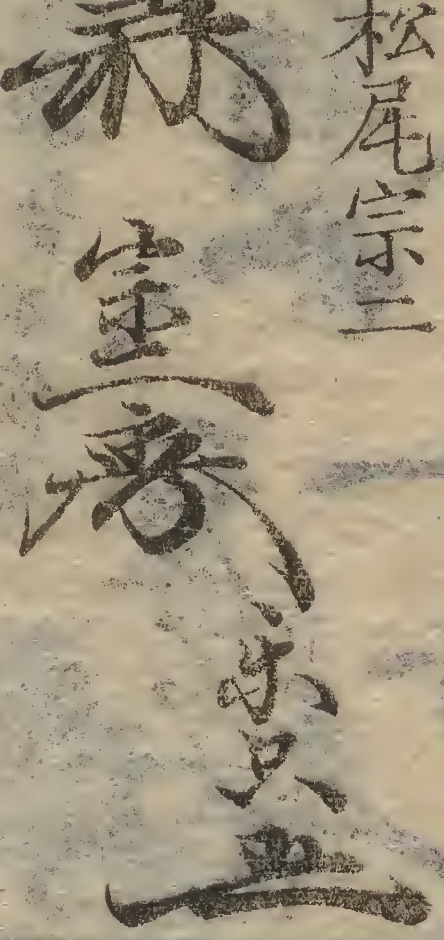


速水宗達

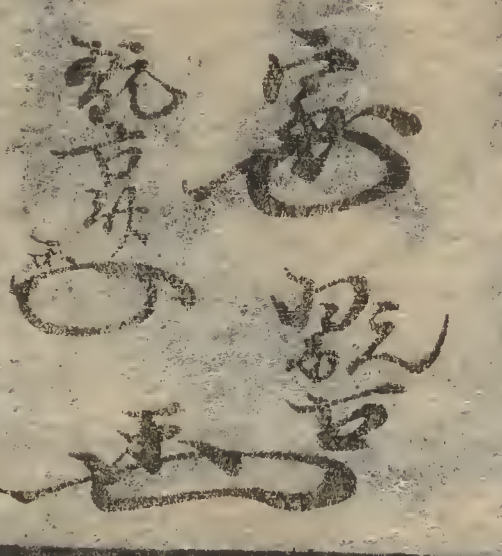
京師ノ人一燈宗室ノ弟子寛政
元酉年
院御所エ御茶奉ルニヨリテ養
壽院ノ号ヲ賜ハル字布棟又
知道扶桑翁ト号ス儒ヲ伊藤氏
ニ学ブ号ハ芦ノ庵ノ門人也又日本茶
道博士ノ称ヲ賜フト云



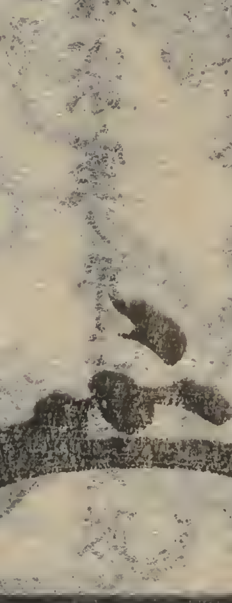
松尾宗二



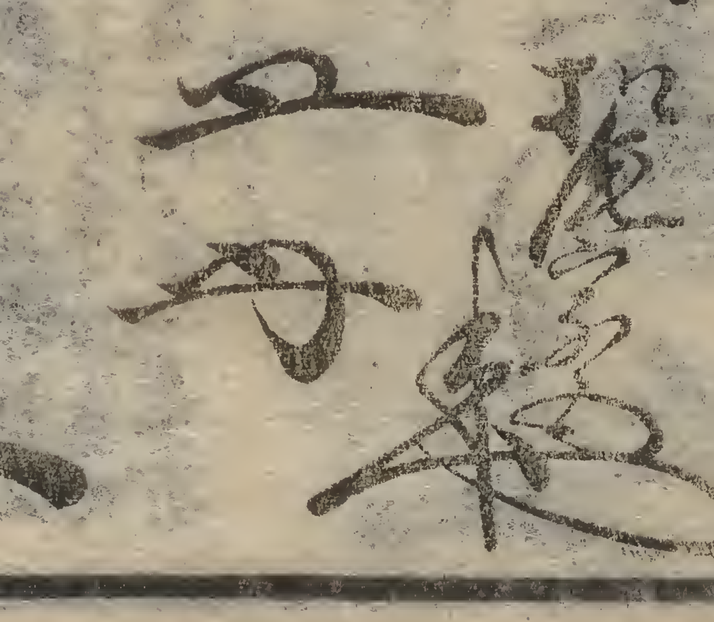
仝 宗五



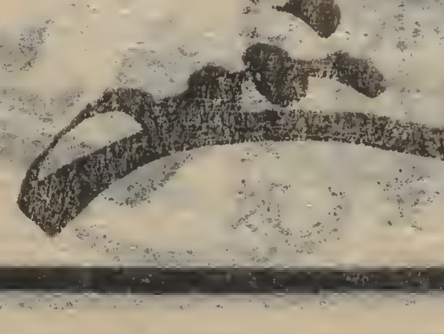
松尾宗俊 不管斎



仝宗吾 不俊斎



安田是誰

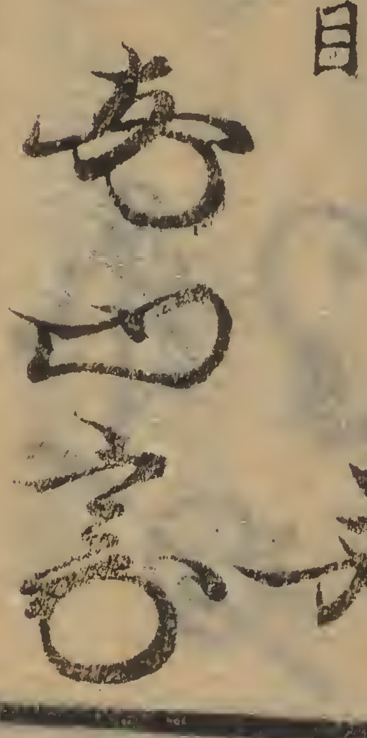


京師ノ人初對馬ト称ス禅ヲ好ミ
賣茶翁ニ参ス翁寂後天竜寺
桂洲和尚ニ参ス学ス又窮楽淡
々トモ友トシヨシ

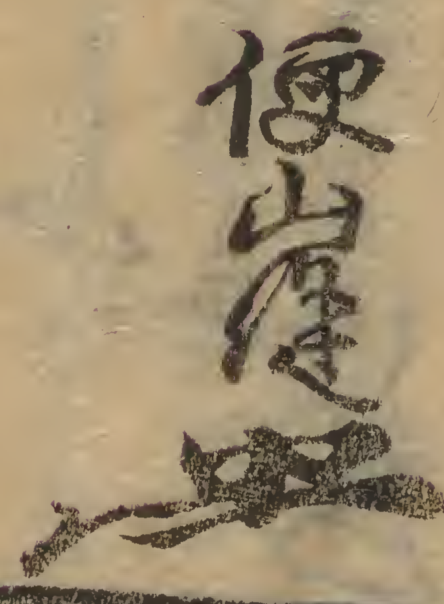
平尾數也



仝二代目



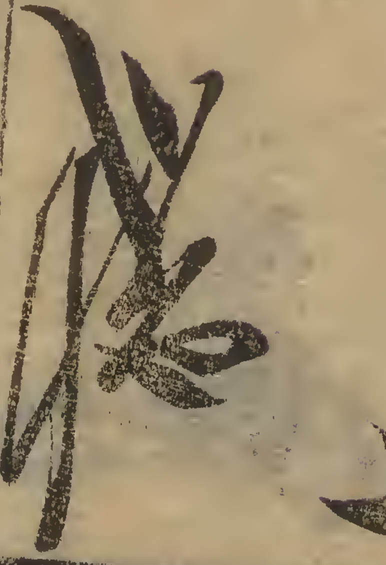
箇中菴便山



岡本玄治



因杲居士



畠山牛菴

古筆了佐

仝了意

大倉是誰　同汲水

續花押終

○古筆御手鑑目録

并價附

一古筆御手鑑押様乃次第ハ古筆名葉集ニ悉く録するが故ニ此ニて只其後附を記すなり

一行乃集の切何ニ歌切又ハ佛経のきれを録なきれたりつるも悉く名葉集ニ載するを略して此ニ出せる乃價録ハ寛永比の代なる事ハ紙の内ニ善悪あれハ不出来なる物もよろしき高下あることなり

○古筆切代附

金三ア 聖武天皇
金三ア 聖徳太子
金一両 後深艸院
金一両 伏見院
金三ア 後二條院
金一両 後醍醐天皇
金二両 月輪兼実公
金三ア 光明峰寺道家公
金一ア 一條禅閤兼良公
金二両 久我殿通具
金二両 大炊御門殿冬忠
御堂関白道長公
金三ア 日野殿俊光

金三ア 光明皇后
金一両 後鳥羽院
金二両 亀山院
金一両 後伏見院
金二両 花園院
金一両 後円融院
金百疋 後京極良経公
金二ア 二條殿持通
銀五両 勝定院殿義持
金二両 同 通親
金一両 今出川殿公顕
法性寺関白忠道公
金三ア 同 資廣

銀五両 万里小路殿宣房
金二ア 閑院殿実継
金三両 五条三位俊成卿
金三ア 冷泉殿為相
同 為家
金五両 二條家慶融
同 為明
金一両 同 為藤
金二両 四條大納言公任
金一両 藤原基俊
金十両 参議佐理卿
金三両 飛鳥井殿雅経
銀五両 高辻殿長雅
金二両 油小路殿隆蔭

金二両 閑院三条殿実躬
金三両 御子左家俊忠
金一枚 京極黄門定家卿
金三ア 同 為秀
金一両 二條家為氏
金二両 同 為世
金一ア 銀三両 同為重 為右
金[illegible]両 正三位家隆
金十両 小野道風朝臣
金十両 中納言行成卿
源俊頼朝臣
銀五両 同 一位殿
紀 貫之
金二両 海住山光経

金三ア 世尊寺殿伊経　金二両 同 行能
金一両 同 経朝　金一両 同 定成
金一両 同 行尹　金一両 同 行忠
同 伊房　銀五両 同 伊行
金二ア 清水谷殿実秋　小倉殿実名
金二ア 橋本殿公夏　金一両 平松殿資高
金二ア 六條殿有忠　金二両 鎌倉将軍宗尊
金一両 四辻宮善成　金二両 勘解由路殿尊詮
金一両 卜部寂恵　金一両 春日社家祐茂
金三ア 住吉津守国冬　金二ノ 同 国夏
金一両 安嘉門院阿仏　金二ア 真済
金五両 寂然 頼業孝　金一ア 魚養
金二両 寂蓮法師　金二ア 慈恵大師
弘法大師　金二ア 慈覚大師

金一両 傳教大師　智證大師
金二両 慈鎮和尚　中将姫
銀五枚 親鸞上人　蓮如上人
金一枚五両 日蓮上人　日親上人
ノ一両 青蓮院尊道親王　金一両 青蓮院殿慈道
ノ三両 仁和寺守覚親王　ノ三両 同 弘融親王
ノ三両 実相院殿増運　ノ三ア 現覚院殿稙献
ノ三両 醍醐御門跡成賢　ノ一ア 石山寺座主果守
ノ一両 大乗院殿慈信　ノ一ア 安位寺殿経覚
ノ二ア 栂尾明恵上人　ノ三両 高雄文覚上人
ノ二ア 解脱上人　ノ五両 後實僧都
ノ二ア 素眼法師　ノ一ア 尊空
ノ三両 大徳寺一休　ノ二両 同 黒滑
ノ一枚 同 実傳　ノ一枚五両 同 古岳

金一枚 同 大林　金二ア 同 江隠
ノ五両 同 春屋　ノ二ア 同 一凍
ノ五両 同 玉室　ノ二ア 同 宗朝
ノ二ア 同 心渓　ノ二ア 同 仙岳
ノ二ア 妙心寺鉄山　ノ二ア 東福寺虎関
ノ二ア 建仁寺古澗　ノ三両 景愛尼如大
ノ二両二ア 夢窓国師　恵心僧都
ノ三両 中正蔵主　ノ二両 玄恵法印
ノ二ア 同坊岩屏　ノ三両 源三位頼政
ノ二ア 細川持之　ノ二ア 武田元信
ノ三ア 三浦道寸　ノ三ア 大夫坊覚明
ノ二ア 蜷川親元　ノ二ア 東野州素珊
ノ二ア 連歌師宗砌　ノ一ア 日比正廣
ノ一ア 堺月樵　ノ三両 医師道三

○短冊 無名モアリ大旦各ソ コヽニシルス

金三両 後宇多院　金一枚 後光厳院
ノ五両 後小松院　ノ五両 称光院
ノ二両 後花園院　ノ二ア 同勾當内侍
ノ一両 後土御門院　ノ二ア 同勾當内侍
ノ三両 後柏原院　ノ三両 後奈良院
ノ一両 正親門院　ノ三両 陽光院
ノ二ア 後陽成院　ノ三両 後水尾院
ノ二両 後光明院御幼筆
ノ五両 近衛殿政家　ノ二両 同 尚道
ノ一両 同 種家　ノ三ア 同 龍山
銀一枚 同 杦　ノ五両 同 信尋
銀二枚 鷹司殿信房　ノ一枚 同 信尚
金一両二ア 九條殿植通　ノ一両 同 通房

金二枚 二條殿持基
ノ十両 同 晴良
ノ十両 一条殿教房
ノ三両 足利尊氏
ノ五両 同 義政
ノ五両 同 義村
ノ三両 同 義澄
ノ五両 相 阿
ノ一枚 花山院殿師賢
ノ二ア 久我殿季造
ノ三ア 西園寺殿公益
ノ三ア 徳大寺殿実淳
ノ一両 大炊御門殿信量
ノ二ア 今出川殿晴季

金二両 同 尹房
ノ三両 同 昭実
ノ五両 同 冬良
ノ金百目 同 名入
ノ五両 同 義照
ノ二両 同 義躬
ノ三両 徳 阿
銀一枚 同 家雅
銀一枚 同 昊家
ノ一両 同 実晴
ノ一両 同 公滑
ノ三ア 同 经名
ノ二ア 同 宣季

ノ一枚 轉法輪殿実量
ノ二ア 同 実香
ノ三両 四條殿隆永
銀一枚 山科殿重国
ノ三ア 日野殿輝資
ノ二ア 廣橋殿守光
ノ一枚五両 烏丸殿資任
ノ五両 同 光廣
ノ三枚 柳原殿量光
ノ二ア 甘露寺殿親長
ノ三ア 同 蓮空
ノ二ア 葉室殿頼宣
ノ一枚 万里小路殿賢房
ノ二枚 勧修寺殿教秀

ノ二両 同 禅空 公教御法名
ノ五両 同 三條家実任
ノ三両 同 隆重
銀五両 同 言綱
銀五両 同 資勝
ノ三ア 同 兼秀
ノ一両 同 光宣
銀五両 同 光賢
ノ一両 同 資宣
ノ二ア 同 元長
ノ二両 同 经遠
ノ二ア 同 頼業
ノ三ア 同 惟房
ノ一両三ア 同 政顕

金二ア 同 尚顕
ノ二両 中御門殿 宣綱
ノ五両 高倉殿 永熙
ノ二両二ア 閑院三条殿 実望
ノ三ア 西三條殿 実隆
ノ一両 同 実世
ノ三ア 正親町殿 公兼
ノ三ア 同 公叙
ノ二両 同 公澄 慶流
ノ三ア 四辻殿 公音
ノ二ア 同 季継
ノ三ア 滋野井殿 教国
銀一枚 水無瀬殿 兼成
ノ三両 松木殿 宗継

ノ三両 同 晴右
ノ三ア 同 宣胤
ノ三ア 同 常眼 耆老
ノ三ア 同 公兄
ノ三ア 同 公條
ノ一両 同 公国
ノ三ア 同 実胤
ノ一両 同 実彦
ノ二ア 同 公高
ノ三ア 同 季遠
ノ一枚 同 季春 慶流
ノ一枚 川鰭殿 実治
銀一枚 同 兼俊
ノ一両 同 宗藤

ノ一両 持明院殿 基春
ノ三ア 同 基孝
ノ一枚 冷泉殿 為家
ノ三ア 同 為広
ノ二ア 同中山殿 為親
ノ五両 同 共基
ノ一枚 下冷泉殿 持和
ノ一枚 同 為孝
ノ一枚 同條家 為忠
銀五両 藤谷殿 為貫
ノ三ア 中山殿 宣親
ノ一枚 飛鳥井殿 宋雅
ノ二ア 同 栄雅
ノ二ア 同 雅綱

ノ三ア 同 基規
銀一両 同 基定
ノ三両 同 為富
ノ一両 同 為知
ノ二ア 同 為頼
ノ一両 同 明融
ノ一枚 同 政為
ノ二ア 同 為尚
ノ一枚 同 為親
金五両 中山殿 宣親
ノ三ア 同 康親
ノ五両 同 雅世
ノ二ア 同 雅俊
ノ二ア 同 雅春

同 金三ア 雅敦　同 金三ア 雅賢
同 ノ三ア 雅庸　同 ノ二ア 雅宣
同 ノ一ア 雅昭　同 ノ二ア 雅章
同 ノ五両 雅孫 慶流　同 ノ三ア 雅康
同 ノ二両 頼孝　同 ノ三ア 釆世 三家書真名
船橋殿 ノ二ア 秀賢　同 ノ一ア 秀相
庭田殿 ノ三ア 雅行　同 ノ三ア 重經
同 ノ三ア 重親　同 ノ三ア 重保
五辻殿 ノ一枚 富仲　同 ノ三ア 諸仲
中院殿 ノ一枚 通秀　同 銀二両 通村
北畠殿 ノ一枚 晴長　同 ノ二ア 親顕
白川殿 ノ三ア 忠富　同 ノ三ア 雅業
西洞院殿 ノ五両 時顕　同 ノ三ア 時慶
薄殿 ノ三ア 以量　同 ノ二ア 以緒

高辻殿 金二両 章長　同 銀二両 持従
五條殿 金三ア 為学　同 ノ二ア 為名
東坊城殿 ノ三ア 和長　同 ノ二両 盛長
高倉殿 銀一枚 範音　同 ノ三ア 範久
鷲尾殿 ノ二ア 隆康　同 ノ三ア 隆尚
西大路殿 ノ三ア 秀成　高倉殿 ノ三ア 永登
油小路殿 ノ一枚五両 隆継　同 銀二両 隆基
清閑寺殿 金二ア 共房　同 ノ二ア 保房
海住山殿 ノ三両 高清　田向殿 ノ三ア 重治
姉小路殿 ノ三ア 基綱　同 ノ三ア 済継
甘露寺殿 ノ五両 行季　富小路殿 秀直
阿野殿 ノ一ア 実顕　同 ノ一ア 公福
清水谷殿 ノ二両 公松　小倉殿 ノ三ア 季種
橋本殿 ノ二ア 季村　平松殿 銀一両 時庸

金十五両 園殿基有　同 金十両 基富
銀五両 竹内殿俊春　同 十両 孝治
金三ア 綾小路殿俊量　同 ノ三ア 資敷
ノ三ア 六條殿有慶　同 ノ一ア 有純
ノ三ア 八條殿智仁　同 ノ三ア 智忠
ノ三ア 高松殿斉祐　同 ノ三ア 好仁
ノ三ア 唐橋殿右數　ノ一ア 七条殿隆修
ノ一ア 堀川殿康純　銀二両 花園殿実情
銀五両 久世殿通式　ノ一ア 中川殿貞秀
ノ一ア 樋口殿信孝　同 ノ一ア 信康
ノ一ア 千種殿有能　ノ一ア 裏辻殿季福
ノ一ア 岩倉殿具起　ノ一ア 堀小路殿通親
ノ一ア 倉橋殿泰吉　ノ一ア 野宮殿定道
ノ一ア 藤江殿雅良　ノ一ア 吉田殿兼見

ノ一ア 土御門殿泰廣　同 ノ一ア 泰重
ノ一ア 壬生官務孝亮　ノ一ア 荒木宮豊
ノ一ア 佐米野資敦　ノ一ア 山本居藤應
ノ三両 鳥居小路經厚　同 ノ一ア 經乗
ノ五両 藤寿丸 丹波 日住　ノ三ア 追藤長治 辻 家
ノ三ア 北小路俊直　ノ三ア 官務増長 三条 家
ノ三両 平田星梅　ノ二両 速水親祐
ノ五両 伏見宮貞成　同 三両 貞常
同 ノ三ア 邦高　同 ノ三ア 貞敦
同 ノ三ア 邦輔　同 ノ一ア 貞康
同 邦房　同 貞清
ノ三ア 御室御所守理　ノ三両 真光院殿尊海
ノ三ア 同院家良俊　ノ三ア 真乗院殿真淳
ノ一両三ア 同本寺宮静覚

金百貫 青蓮院宮尊圓
ノ三両 同 尊應
ノ二両二ア 同 尊鎮
ノ一ア 聖護院宮道増 晃名
ノ三ア 梶井宮尭胤
ノ一ア 同 蜡庵
ノ二ア 妙法院宮覚胤
ノ二両 勧修寺宮常信
ノ二ア 照高院宮道澄
ノ三両 勝仙院殿澄典
ノ一両 大覚寺宮義後
銀一両 実相院宮義尊
金一ア 知恩院宮良純
銀一枚 下川原殿道什

金一両 同 毋名
ノ三両二ア 同 尊傳
ノ二両 同 尊朝
銀二両 同 道晃
金二両 同 彦胤
銀五両 同 寂胤
銀五両 同 常胤
ノ二両 随心院御門跡厳宝
ノ二ア 同 道勝
ノ一ア 若王子殿澄存
ノ二両 同 性舜
ノ一ア 大清院殿孝我
ノ一ア 天海大僧正
ノ二ア 同 道永

ノ二両 多々良満繁
ノ五両 西川宰相房任
ノ二両 蒲生知閑
ノ二両 佐々木勝秀
ノ二両 蜷川親世
ノ三両 同 親孝
ノ二両 同 貞高
銀五両 仁保胤秀
金一両 大内義隆
銀五両 同 厳智
ノ二ア 同 宗可
銀五両 陶安房守隆秋
銀五両 相良正継
銀五両 内藤隆和

金一枚五両 同 政弘
ノ一ア 斉藤宗甫
ノ三両 同 李孝
ノ三両 朝倉義賢
ノ二枚 同 親當道智蘊
ノ一ア 同 貞通
ノ二ア 同 貞利
銀五両 玖伯耆守隆泰
銀五両 同 春誉
銀五両 同 敦定
銀五両 長門守冨国
銀五両 同 隆房
銀五両 青景隆春
ノ一両 阿河貞牧

金一枚五両 杉原宗伊　金一枚 細見宗高
ノ三ア 備中兵庫頭　ノ三ア 岩山民部少輔
銀五両 秋庭元頼　銀五両 熊谷直盛
銀五両 雲州賢清　銀三両 本江金剛丞康
銀三両 若原秀俊　金一両 能勢豊永
ノ三両 上野持頼　ノ二両 木戸実範
ノ二両 大江元高　ノ三ア 田原頼郷
ノ三ア 上杉元永　ノ二両 大国実頼
ノ二両 池田帯力 无名　ノ三ア 岩山道堅
ノ二両 鈴木忠親　ノ三ア 半井明宗
ノ三両 大和国住遠忠　ノ五両 惟宗光吉
ノ五両 東野州常縁　ノ二両 同 景山
ノ三両 飯尾常房　ノ二両 豊前後守純秋
ノ一ア 多賀出雲守　ノ二ア 松永弾正久秀

金三両 同 玄清　同 ノ一ア 壵元伯
銀一枚 徹書記正徹　金三両 同 身正敎
金一両 同 桂久　能阿弥　相阿弥
ノ三両 牡丹花　以下門人堺衆上之
ノ三両 宗訊　一両 宗周　ノ一ア 等恵　ノ二両 宗全
ノ五両 宗椿　ノ二両 宗柳　ノ二両 主牧　ノ三ア 道安
ノ三ア 寿印　ノ一ア 玄倫　ノ三ア 玄俊　ノ三ア 友理
ノ一ア 阿　ノ二ア 宗節　ノ三ア 慶祐
ノ三両 連哥師宗牧　ノ二両 宗養　ノ二両 周桂
ノ一両 紹巴　ノ二両 玄仍　ノ一ア 玄仲　銀二両 玄陳
ノ三両 玄的　ノ二両 紹尚　ノ二両 玄俊　ノ二両 心前
ノ二ア 兼興　ノ三ア 昌叱　ノ三ア 昌琢　ノ一ア 昌程
銀二両 昌俔　銀一両 昌通　金五両 寿慶　ノ三ア 慶純
金一枚五両 山崎宗鑑　柴屋軒宗長

金三両 豊臣秀吉
銀一両 宇喜多秀家
金五両 今川氏親
ノ三ア 同 氏真 宗誾
ノ五両 藤井副慶
ノ一枚 木幡雅冬
ノ五両 山名常凞
ノ三両 細川道永
ノ二両 同 高国
ノ一両 同 尹隆
ノ三ア 同 元重
ノ三両 細川藤孝
ノ一ア 同 三斎 [illegible]
ノ一枚五両 赤松満祐

金一ア 同 秀頼
ノ一ア 金吾中納言
ノ三ア 同 覚信
銀一両 同 刑部少輔
金一枚 法性寺親世
ノ一両 南部国行
ノ五両 細川満之 道観
ノ三両 同 政元
ノ三両 同 政国
ノ三ア 同 元久
ノ一両 武田勝頼
ノ一両三ア 同 玄旨書
ノ一ア 嶋津家久
ノ五両 同 満祐 賞

金三両 竹内御門跡良厳
ノ三ア 同 覚恕
金一両 円満院宮仁恪
ノ三両 一乗院宮良慶
ノ一ア 大乗院御門跡良慶
ノ一両 東大寺実泉
ノ一両 松林院実性
ノ三ア 祐範
ノ三ア 安住寺啓良済
ノ二両 定法寺公助
ノ三両 祐夏 加茂社家
銀二枚 大徳寺決菴
金一ア 相国寺亨貴
銀二両 東福寺光隣

金一両 同 慈運
銀五両 同 覚胤
銀一両 同 常尊
金一両 同 尊政
ノ一ア 同 尋圓
ノ三ア 興福寺淳専
ノ一両 祐記 奈良若宮社人
ノ一両 三井寺長元
ノ一ア 積善院尊雅
ノ四両 四室殿公順
ノ一枚 同 祐守
ノ二両 天竜寺策彦
ノ三両 南禅寺大愚
銀二両 建仁寺東説

銀二両 東寺白毫 無名
銀二両 新春坊重清
金一ア 拙豊願寺業傳
銀一枚 高野木食應其
金二両 不斷光院參亂
銀五両 覚阿上人
銀二両 遊行上人化阿
金五両 兼好 無名
金五両 慶運
ノ三百貫 宗祇
ノ三両 宗梅 宗祇執筆
ノ三両 堯孝 和哥所法印
ノ五両 常徳院圓雅
ノ二ア 同 堯知 無名

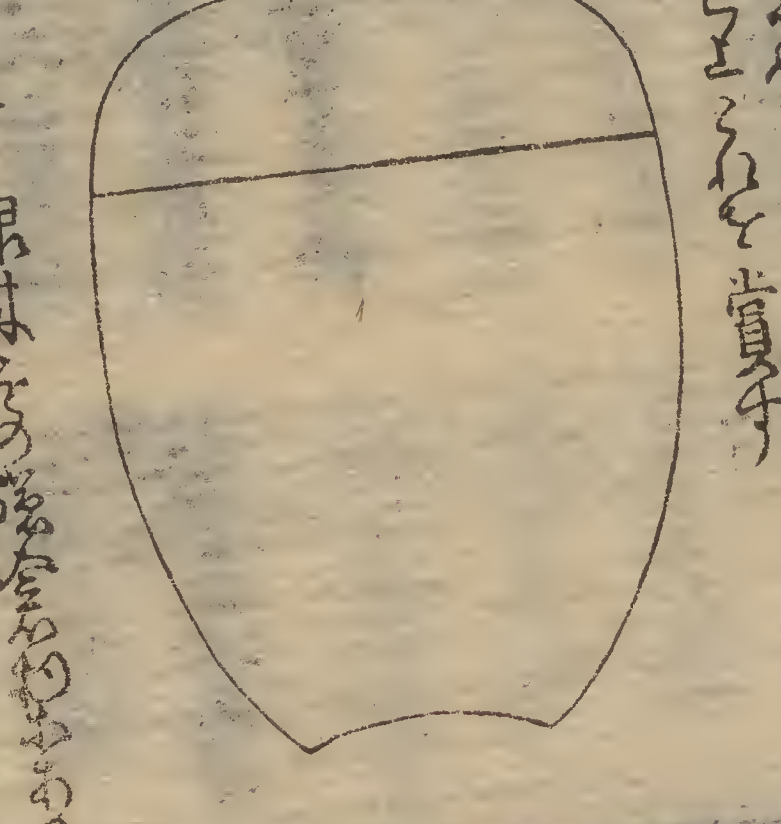
八幡孝清
金二両 滝本坊昭乘
ノ二ア 同 木食梵之仙
ノ一両 本満寺日紗
ノ一ア 北野廳勝院禪昌
ノ一両 有俊
ノ一ア 時宗其阿
ノ一両 静弁
ノ一両 頓阿 無名
ノ三両 専順
ノ一両 兼載 無名
ノ一ア 兼与
銀一枚 同 堯恵
金一枚 同 伊成

金二両 本江光泰
ノ一両 林道春
ノ一枚 伊達政宗
ノ二両 毛利輝元
ノ一両 小堀宗甫
ノ一両 長庵 信長古筆
ノ一両 鳥羽宗慶
ノ二ア 本阿弥光悦
ノ一ア 慶偏院殿
古筆了佐

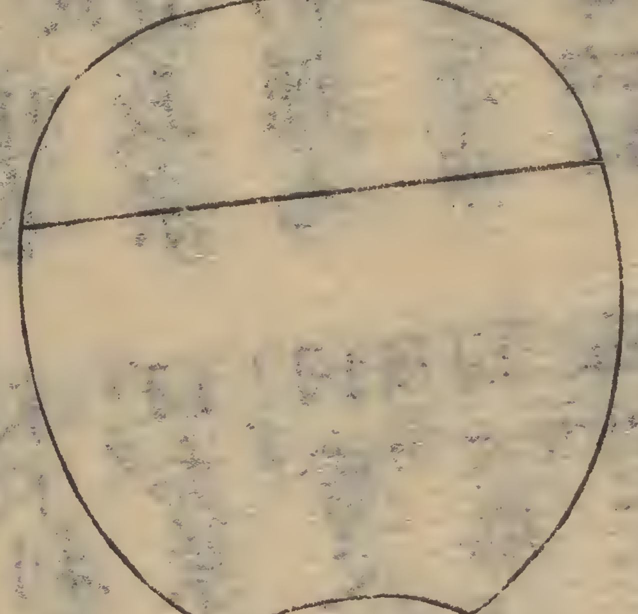
金一両 木下長嘯子
銀五枚 木下利房
ノ一ア 同 秀宗
ノ一ア 同 秀之
銀一両 同 大膳 無名
ノ一両 梅軒宗
銀二両 和久半左衛門 無名
ノ一ア 小野於通
銀一両 松倉豊後守内々

古筆價録終

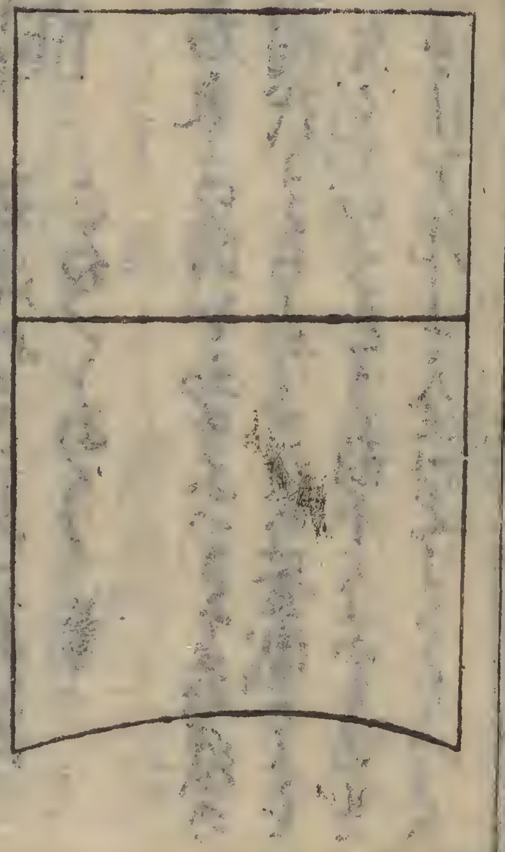
○棗 義政公信長公豊太閤時代の名物あり利休作ハ あまりなり底に朱の判あり これを賞す



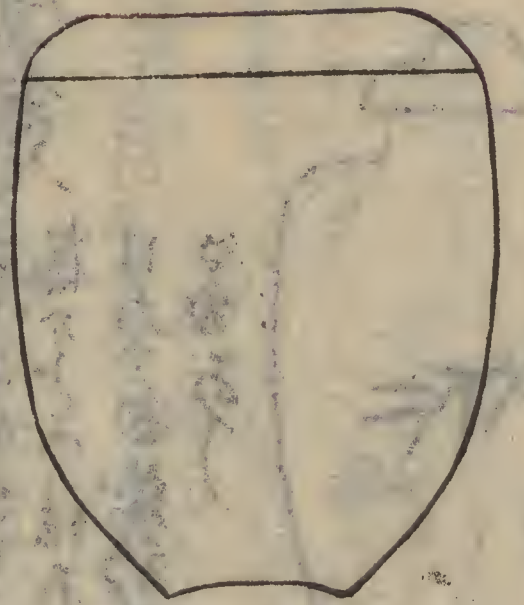
九棗 根来その塗物名物もあり いつれも袋入なり 長緒短緒あり



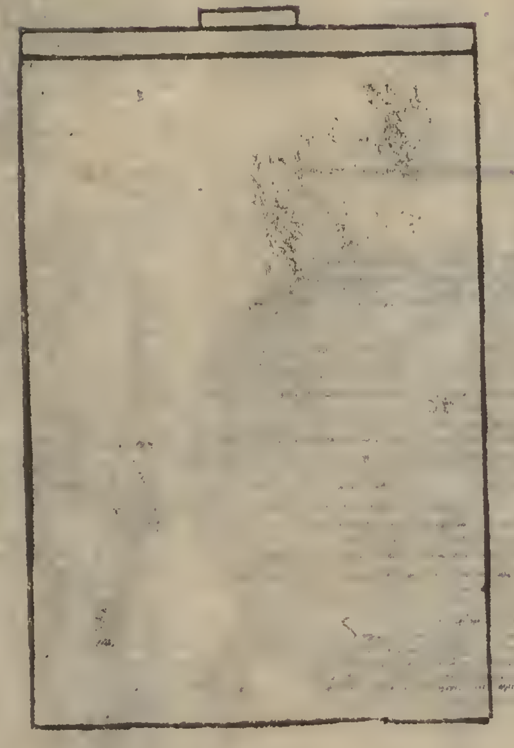
大中継 小中継 時代まきゑ名物多く 多くハ名物袋



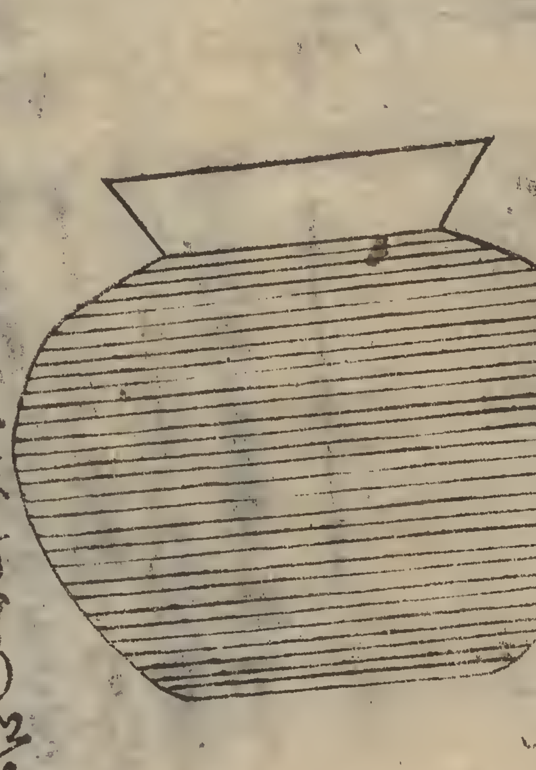
頭切 利休形とて多くハ名床 内ぬり外床塗なり



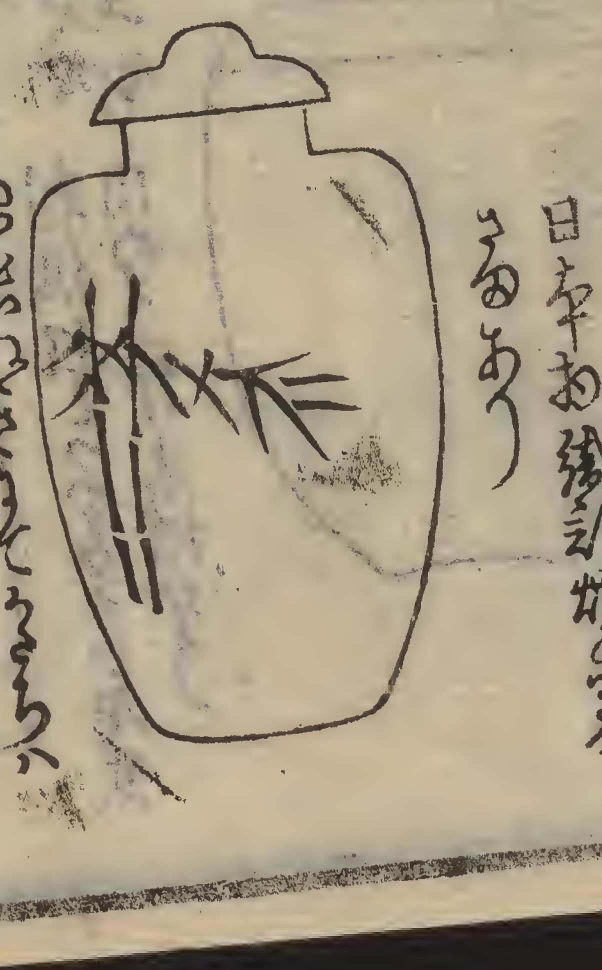
寸切 織部形とて古きの名物 ありまたあり又釣合紋等 寸切とてあり指の曲物なり 釘目ありまた指なし



薬器　唐物宣徳の手といふ物なかに紛らはしき多く　のごときの形は唯朱塗のもの　数も多し



薄茶入　南京染付なり松竹梅などの絵ありまた日本にも織部焼にもあり



一閑　張物にてこしらへたるは一閑といふもあり

右棗の図を出すはつきて蒔絵の時代物がくのごとき鑑識のことを知るべき故にそのことを記して全く知る事なり

○蒔絵物の時代

聖武時代　塗蒔絵唐物に似たり　これを上代物といふ奈良時代の作なり　あまりなきの絵もあり　後の時代のものとは異なり　後に箔を置くの物もあり　文明時代のものとは違ひ　後の時代のものにはあらず

東山時代　此時代のまき画なりあまり和らかにして　此時代を東山殿時代と　いふより後の時代を云ふ

鎌倉彫　唐物に似たるもの内のかた日本物もあり

越前彫　古い物のことなり

金林寺　すべて内黒の文字武儀ともいふ　後醍醐天皇吉野にて勅作の物のその根より作られたり

盛阿弥　中次などのひとなりあり盛のこしらへ物のうち

秀次　京なり中次にあり　薄茶入もあり

藤重　京の東山時代より蒔絵の物中継などにて東山藤重といふあり

小田原彫 彫物わろし ざらん箔かゝること役立たし

堺大塗師 東之中次

壊久庵 又あらんとそはふ本物ゟ左具入の所々あり

奈良塗 利休ぶさらん春日塗といふ事を塗あり

五十嵐 時代ゟ 宗知まきまき名所も有名

根来物 まる合お形あり紙など志かしすりそうん作り紙を漆ついでし
めうへよく根来にわろしどもし紙をつぎ

紹鴎 中次ニ ○名塗 利休 中次棗など のごと相の蒔絵

織部 中次 ○如庵○吉兵○与三 上田 東

長府 古今時代京の名所絵師なり 本能寺前絵のごとのあり

若狭盆 まる漆内赤塗を底ニ出し四方の おり大ぶりなる大きさなり絵

角入くかゝることの名あり

松本盆 五寸八分四方まて角形もあり

茶家酔古四襍終

嘉永紀元戊申捻春

池内氏蔵版

書肆弘所

大坂 藤屋善七

河内屋茂兵衛

江戸 須原屋茂兵衛

同 伊八

攝津 篠田伊十郎

尾陽 永楽屋東四郎

加陽 松浦善助

京寺町通六角下ル

近江屋佐太郎 梓製